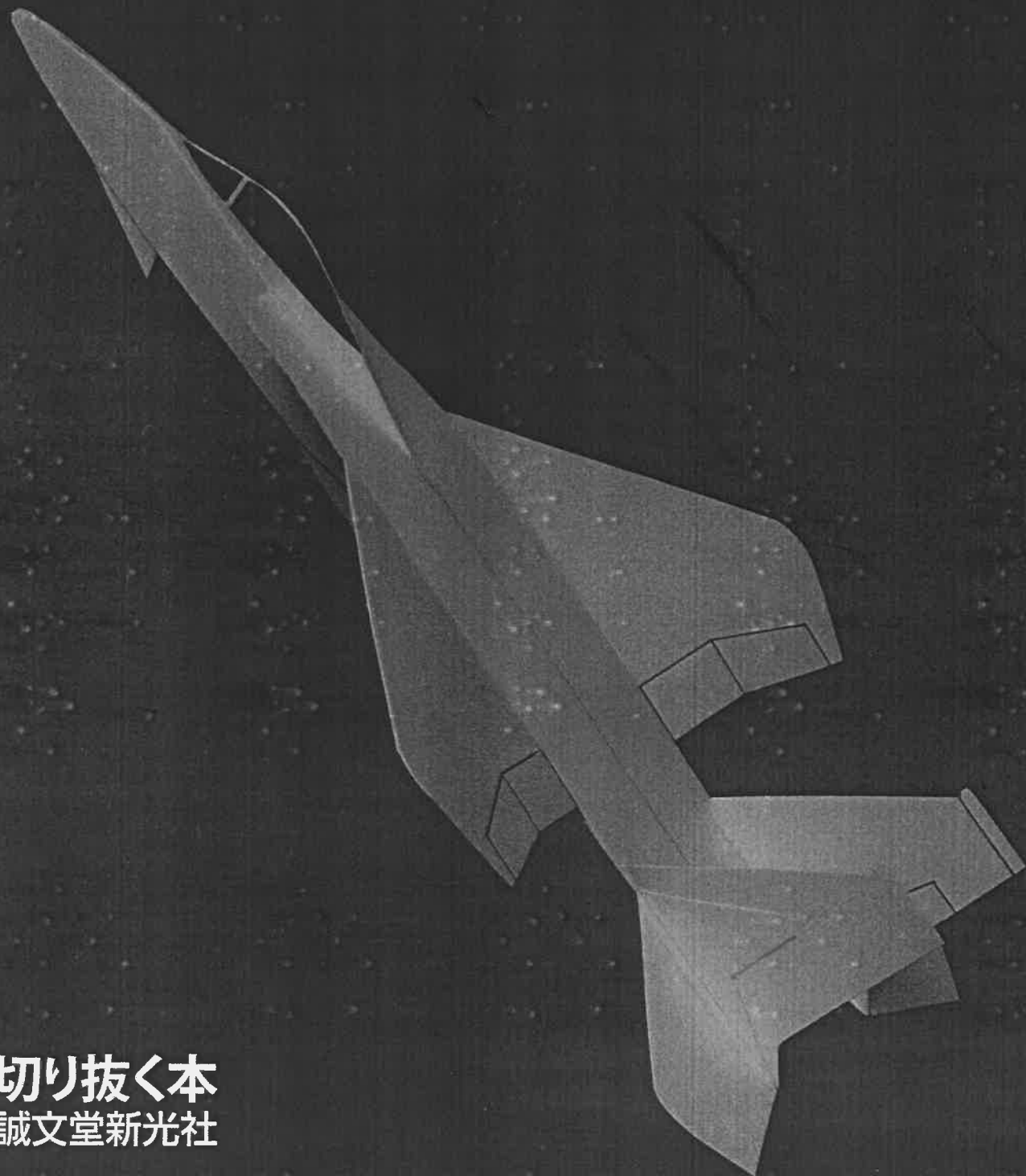
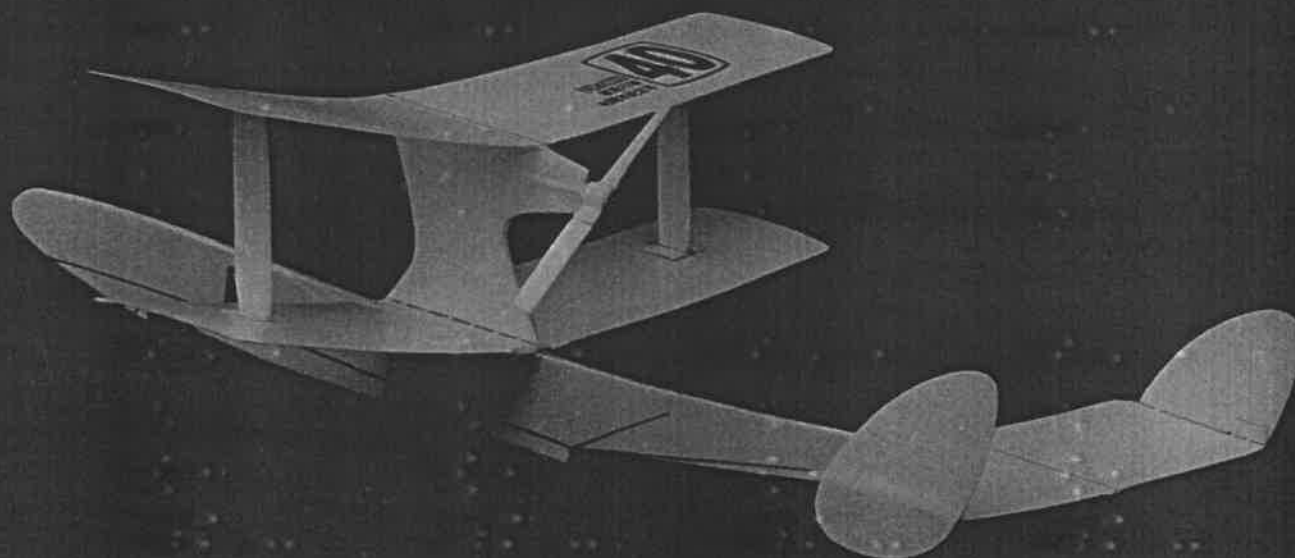
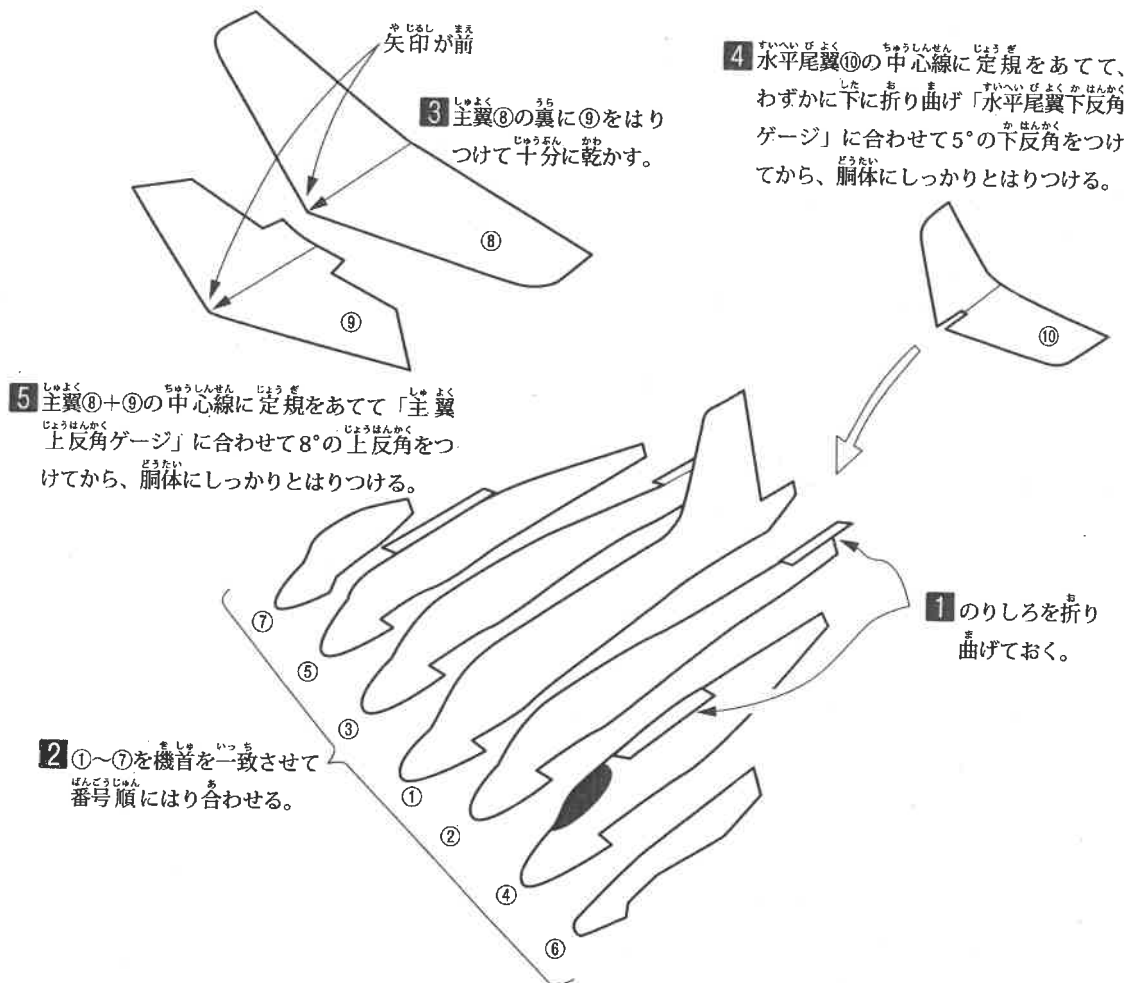
新10機選 2

二宮康明の紙飛行機集

戦闘機・飛行艇

切り抜く本

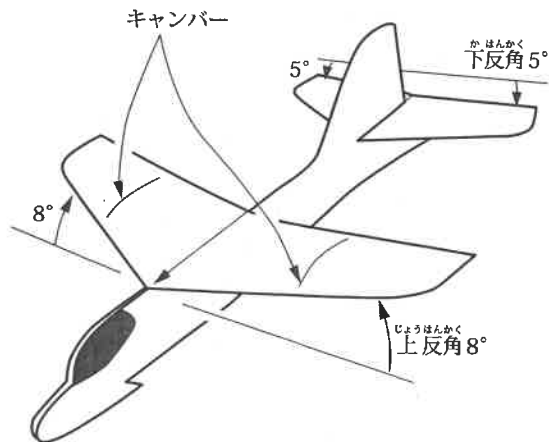
誠文堂新光社

ジェット・ファイター（N-2420）

はり合わせ　1 2…の番号にしたがって順序よくつくる。のりは「セメダインC」がよい。

仕上げ　仕上げはのりが十分に乾いてからすること。

6 主翼面を指で少しわん曲させて「キャンバー・ゲージ」に合わせてキャンバーをつける。

7 水平尾翼に「水平尾翼下反角ゲージ」をあてて、5°の下反角を確かめる。

8 主翼に「主翼上反角ゲージ」をあてて、8°の上反角を確かめる。

9 機体を手にもち、まっすぐ前から見て、また後ろからも見て、胴体や翼のねじれ、曲がりをていねいに直す。また機体を真上から見て、垂直尾翼が完全に胴体に平行であることを確かめる。

試験飛行　9ページの「試験飛行」の説明にしたがってテストをする。

第二次大戦の米国戦闘機F4U　ヴォート・コルセア（N-2402）

ヴォート社のＦ４Ｕ“コルセア”は第二次世界大戦後半に米国の海兵隊と海軍で使用された戦闘機です。朝鮮戦争でも強力な2000馬力の大きな積載量による地上攻撃能力を買われて、プロペラ戦闘機としてはもっともおそくまで使われました。

はり合わせ　1 2 …の番号にしたがって順序よくつくる。のりは「セメダインＣ」がよい。

1 のりしろを折り曲げておく。

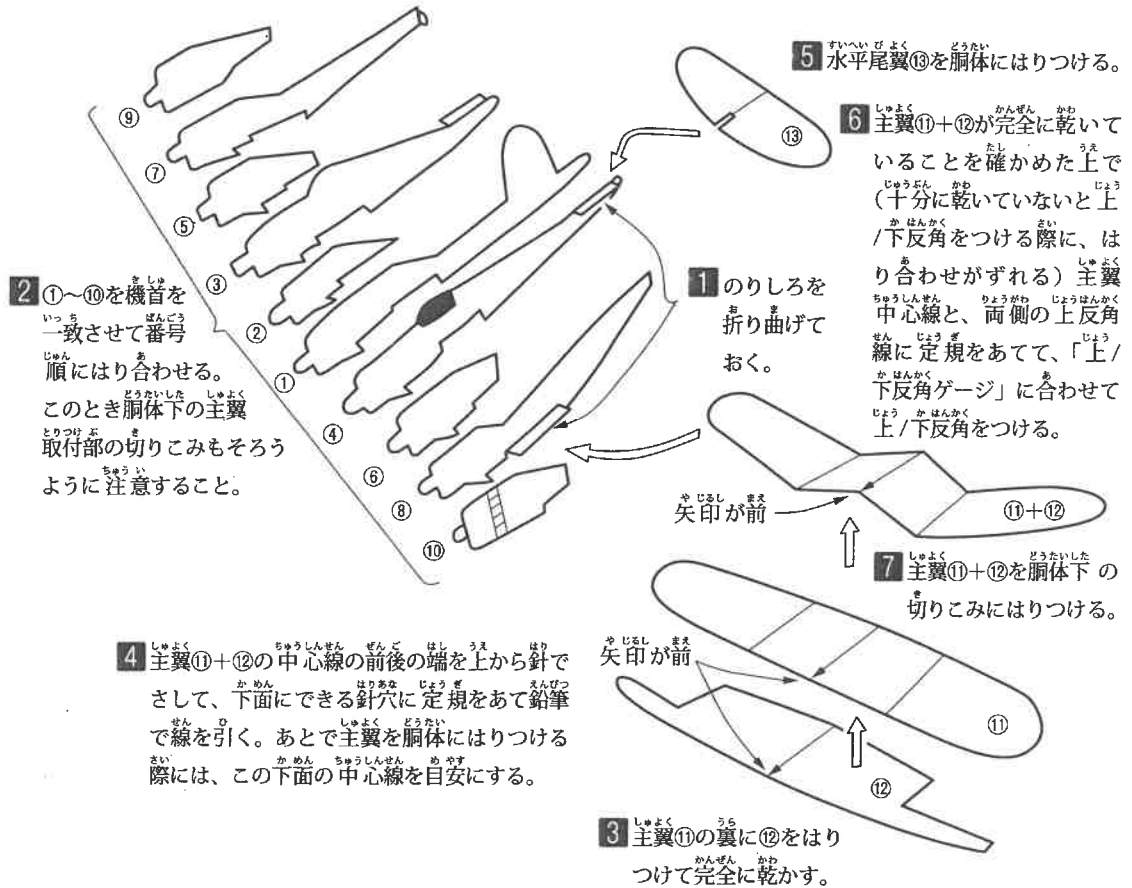
2 ①～⑩を機首を一致させて番号順にはり合わせる。このとき胴体下の主翼取付部の切りこみもそろうように注意すること。

3 主翼⑪の裏に⑫をはりつけて完全に乾かす。

4 主翼⑪＋⑫の中心線の前後の端を上から針でさして、下面にできる針穴に定規をあて鉛筆で線を引く。あとで主翼を胴体にはりつける際には、この下面の中心線を目安にする。

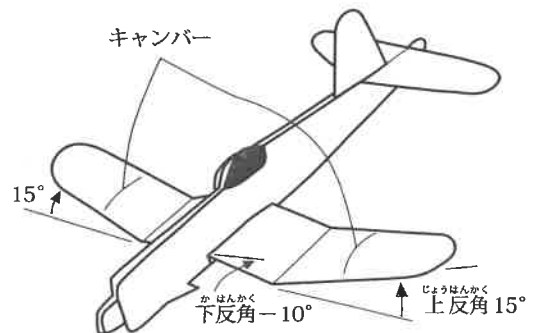
5 水平尾翼⑬を胴体にはりつける。

6 主翼⑪＋⑫が完全に乾いていることを確かめた上で（十分に乾いていないと上/下反角をつける際に、はり合わせがずれる）主翼中心線と、両側の上反角線に定規をあてて、「上/下反角ゲージ」に合わせて上/下反角をつける。

7 主翼⑪＋⑫を胴体下の切りこみにはりつける。

仕上げ　仕上げはのりが十分に乾いてからすること。

8 主翼面を指で少しわん曲させて「キャンバー・ゲージ」に合わせてキャンバーをつける。

9 主翼に「上/下反角ゲージ」をあてて、－10°の下反角と、15°の上反角とを確かめる。

10 機体を手にもち、まっすぐ前から見て、また後ろからも見て、胴体や翼のねじれ、曲がりをていねいに直す。また機体を真上から見て、垂直尾翼が完全に胴体に平行であることを確かめる。

試験飛行　9ページの「試験飛行」の説明にしたがってテストをする。

米国ヴォート社のジェット戦闘機 **F-8 "クルセーダー"** (N-2416)

紙飛行機のプロフィル・モデルを設計する場合、この"クルセーダー"のような機首の長いジェット戦闘機は機首おもり無しで構成しやすいですが、大馬力の空冷エンジンつきの機首の短い三菱「零戦」などの機体の場合には機首おもりが必要になります。

はり合わせ　1 2…の番号にしたがって順序よくつくる。のりは「セメダインC」がよい。

3 主翼⑧の裏に⑨をはりつけ、十分に乾かす。

5 主翼⑧+⑨の中央に定規をあて、少し上に折って、「上反角ゲージ」に合わせて8°の上反角をつけてから胴体中央上部にしっかりとはりつける。

4 水平尾翼⑩を胴体後部にはりつけて、十分に乾かす。

1 のりしろを折り曲げておく。

2 機首を一致させて、①から⑦までをはり合わせ、十分に乾かす。

仕上げ　仕上げはのりが十分に乾いてからすること。

6 主翼面を指でかるくわん曲させ、「キャンバー・ゲージ」に合わせてキャンバーをつける。

7 主翼に「上反角ゲージ」をあて、8°の上反角を確かめる。

8 機体を手にもち、正面から見て、また後ろからも見て、胴体や翼のねじれ、曲がりをていねいに直す。また機体を真上から見て、垂直尾翼が完全に胴体と平行であることを確かめる。

試験飛行　9ページの「試験飛行」の説明にしたがってテストをする。

三菱　零戦（ゼロ戦）（N-2562）

はり合わせ　**1** **2**…の番号にしたがって順序よくつくる。のりは「セメダインC」がよい。

1 胴体部品①～⑤のおもり穴をカッターで切りぬく。

2 のりしろを折り曲げておく。

3 ①～⑥までを機首を一致させて番号順にはり合わせる（⑦はまだ貼らない）。

4 主翼⑧の裏に⑨をはりつけ、十分に乾かす。

5 水平尾翼⑩を胴体後部にはりつける。

6 主翼の表面に印刷されている中心線の前、後端を上から針で刺して、裏面にできる針穴を定規でつないで裏面に中心線を描く。

7 主翼の中心線に定規をあて、少し上に折り曲げ、「上反角ゲージ」に合わせて12°の上反角をつけてから、裏面の中心線に合わせて主翼を胴体に正確にとりつける。

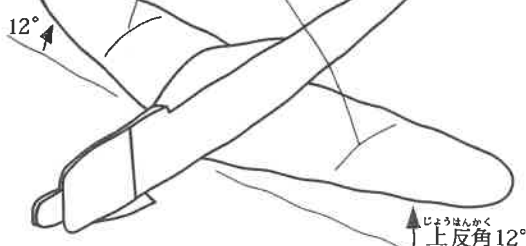
8 のりが完全に乾いたあとで、また塗装をする場合には塗装したあとで、機体の重心を合わせる。まず、おもり用の鉛板を帯状に切って、一部を折りたたんで機首のおもり穴に入れ、残りを機体の外に出しておく。その上から胴体部品⑦を仮り止めする。
機体を裏返しにして下から重心位置（▲マーク）をピンセットの先で支える。外に出してある鉛板を、機体が水平にバランスがとれるまで、少しずつ切る。バランスがとれたら、鉛板を全部たたんでおもり穴に入れ、⑦をしっかりと接着する。

仕上げ　仕上げはのりが十分に乾いてからすること。

9 指先で主翼面をわん曲させ、「キャンバー・ゲージ」に合わせてキャンバーをつける。

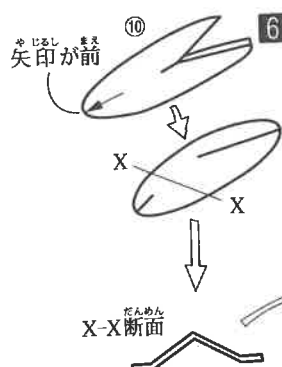
10 主翼の上反角12°を「上反角ゲージ」に合わせて確かめる。

11 機体を手にもち、まっすぐ前から見て、また後ろからも見て、胴体、翼のねじれ、曲がりをていねいに直す。また機体を真上から見て、垂直尾翼が胴体と完全に平行であることを確かめる。

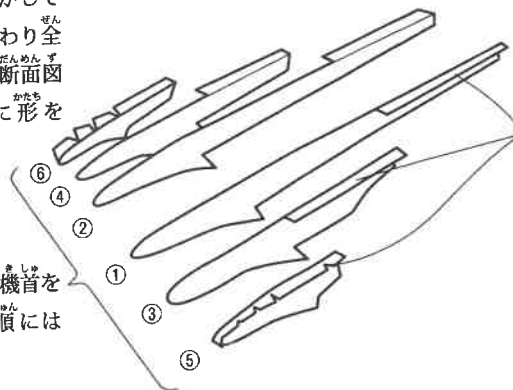
試験飛行　9ページの「試験飛行」の説明にしたがってテストをする。

超音速巡航のできる　F-22（N-1181）

米国の戦闘機F-22“ラプター”をモデルにして設計したものです。従来のジェット機はエンジンの燃料消費の大きいアフター・バーナーを使って推力を増して超音速を出してきましたが、このF-22はアフター・バーナーを使わずに超音速巡航ができます。またレーダーに発見されにくいステルス性を備え、機動能力も大きいのが特長です。

はり合わせ　**1** **2**…の番号にしたがって順序よくつくる。

4 キャノピー（操縦席のカバー）⑩を中心線でかるく山折りにする。つぎにキャノピー全体を山形にふくらませるようにして、のりではり合わせる。

6 キャノピーの下面のへりにのりをぬって翼⑦上面のだ円形のわくに合わせてはりつけ、のりが固まるまで2～3分間指でおさえる。

7 垂直尾翼⑧、⑨の下端を折り曲げてから、翼⑦の上面の細いわく（⑧、⑨と記入してある）に合わせてはりつける。

5 キャノピーののりを十分に乾かしてから、山形のキャノピーのまわり全体を水平に開くように（X-X断面図のように）、指先でていねいに形をととのえる。

1 のりしろを折り曲げておく。

3 翼⑦を胴体の上面にはりつける。このとき翼の中心線が胴体の中心と一致するように注意すること。

⑥ ④ ② ① ③ ⑤

2 ①から⑥までを、機首を一致させて番号順にはり合わせる。

仕上げ　仕上げはのりが十分に乾いてからすること。

8 主翼の左右両端をゆるく上にそらせて、両翼端を水平よりも約1.3cm上にあげる。

9 水平尾翼の後ろへりを約1mm上にあげる。

10 2枚の垂直尾翼を左右外側に傾ける（64°）。（垂直尾翼ゲージを2枚の垂直尾翼の間に上からさしこむようにして使用する）

11 機体を手に持ち、まっすぐ前から見て、また後ろからも見て、翼のねじれ、曲がりをていねいに直す。

試験飛行　9ページの「試験飛行」の説明にしたがってテストをする。

日本の主力戦闘機　F-15（N-395B）

はり合わせ　1 2 …の番号にしたがって順序よくつくる。のりは「セメダインC」がよい。

3 主翼⑧の裏に⑨をはりつけ、十分に乾かす。

4 主翼⑧＋⑨の中央の両側にある破線に（曲線なので）部分的に定規をあて、少し上に折り曲げて「上反角ゲージ」に合わせて7°の上反角をつける。

1 のりしろを折っておく。

5 主翼⑧＋⑨を胴体にはりつける。

2 ①～⑦を機首を一致させて、番号順にはり合わせる。

6 垂直尾翼部品⑩～⑬の下端を折ってから、まず⑩を図のように水平尾翼のわく⑩内にはりつける。つぎに⑪を⑩にはりつけながら、下端を水平尾翼のわく⑪内にはりつける。

7 つぎに⑫、⑬についても 6 と同様に、図示のように水平尾翼のわく⑫⑬の中にはりつける。

仕上げ　仕上げはのりが十分に乾いてからすること。

8 胴体上面のカーブに合わせて主翼全体にキャンバーをつける。

9 「上反角ゲージ」に合わせて主翼上反角7°を確かめる。また垂直尾翼の角度を90°とする。

10 水平尾翼の後ろへりを0.5～1mm上げる。

11 機体を手にもち、まっすぐ前から見て、また後ろからも見て、胴体、翼のねじれ、曲がりをていねいに直す。また機体を真上から見て、垂直尾翼が胴体と完全に平行であることを確かめる。

試験飛行　9ページの「試験飛行」の説明にしたがってテストをする。

日本の主力戦闘機　F-15（N-395B）

はり合わせ　1 2…の番号にしたがって順序よくつくる。のりは「セメダインC」がよい。

3 主翼⑧の裏に⑨をはりつけ、十分に乾かす。

4 主翼⑧+⑨の中央の両側にある破線に（曲線なので）部分的に定規をあて、少し上に折り曲げて「上反角ゲージ」に合わせて7°の上反角をつける。

1 のりしろを折っておく。

5 主翼⑧+⑨を胴体にはりつける。

2 ①〜⑦を機首を一致させて、番号順にはり合わせる。

6 垂直尾翼部品⑩〜⑬の下端を折ってから、まず⑩を図のように水平尾翼のわく⑩内にはりつける。つぎに⑪を⑩にはりつけながら、下端を水平尾翼のわく⑪内にはりつける。

7 つぎに⑫、⑬についても**6**と同様に、図示のように水平尾翼のわく⑫⑬の中にはりつける。

仕上げ　仕上げはのりが十分に乾いてからすること。

8 胴体上面のカーブに合わせて主翼全体にキャンバーをつける。

9「上反角ゲージ」に合わせて主翼上反角7°を確かめる。また垂直尾翼の角度を90°とする。

10 水平尾翼の後ろへりを0.5〜1mm上げる。

11 機体を手にもち、まっすぐ前から見て、また後ろからも見て、胴体、翼のねじれ、曲がりをていねいに直す。また機体を真上から見て、垂直尾翼が胴体と完全に平行であることを確かめる。

試験飛行　9ページの「試験飛行」の説明にしたがってテストをする。

戦闘飛行艇(N-2497)

第一次世界大戦後の時期にイタリアのサボイア（SAVOIA）社で試作されたと伝えられる戦闘飛行艇をモデルにしたものです。この機体は宮崎駿監督の作品「紅の豚」の主役、ポルコ・ロッソが操縦する赤い小型飛行艇として知られています。※

※宮崎駿『飛行艇時代』 大日本絵画 2004

はり合わせ 1 2 …の番号にしたがって順序よくつくる。のりは「セメダインC」がよい。

3 主翼⑩の裏に⑪をはりつけて、十分に乾かす。

6 エンジン部品⑬、⑮の下を折り曲げてから、⑬⑭⑮をはり合わせエンジンをつくる。つぎに主翼中央の四角いわくの中にはりつける。

5 主翼⑩+⑪の中央に定規をあてて、かるく上に折り曲げて、「上反角ゲージ」に合わせて8°の上反角をつけてから胴体上部にはりつける。

4 胴体後部に水平尾翼⑫をはりつける。

1 のりしろを折り曲げておく。また機首のおもり穴を切り抜いておく。

2 機首を一致させて①から⑧までをはり合わせて、十分に乾かす。⑨はまだ接着しない。

*鉛板は釣具店で、帯状のものが売られている。

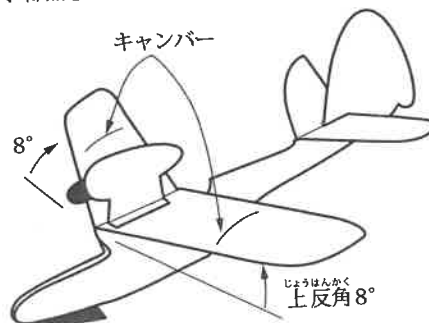
7 鉛板*を巻いて機首の「おもり穴」に入れ、上から部品⑨を仮に貼りつける。主翼取付部の▲マークの点をピンセットあるいはハサミを開いて下から支え、おもりの量を加減して、機体が水平になって前後のバランスがとれたら、部品⑨をしっかりとはりつける。

仕上げ 仕上げはのりが十分に乾いてからすること。

8 主翼面を指でかるくわん曲させて、「キャンバー・ゲージ」に合わせてキャンバーをつける。

9 主翼の上から「上反角ゲージ」をあてて、上反角8°を確かめる。

10 機体を手にもち、まっすぐ前から見て、また後ろからも見て、胴体や翼のねじれ、曲がりをていねいに直す。また機体を真上から見て、垂直尾翼が胴体と完全に平行であることを確かめる。

試験飛行 9ページの「試験飛行」の説明にしたがってテストをする。

飛行艇(N-2324)

はり合わせ　1 2 …の番号にしたがって順序よくつくる。のりは「セメダインC」がよい。

3 主翼⑪の裏に⑫をはりつけて、十分に乾かす。

6 主翼が乾いたら中心線に定規をあて上に少し折り曲げ、「上反角ゲージ」に合わせて8°の上反角をつける。

7 主翼⑪+⑫を胴体にはりつける。

2 機首を一致させて①〜⑩をはり合わせる。

4 水平尾翼⑬ののりしろを図のように上下に折り曲げる。この折り曲げ線に合わせて垂直尾翼⑭、⑮を左右にはりつける。

5 尾翼⑬+⑭+⑮を胴体後端にはりつける。

1 のりしろを折り曲げておく。

8 ⑯、⑱ののりしろを折る。⑯⑰⑱をはり合わせてエンジン部をつくる。このとき後ろから虫ピンをさしこんでおき、乾いたら抜く。

矢印が前

矢印が前

矢印が前

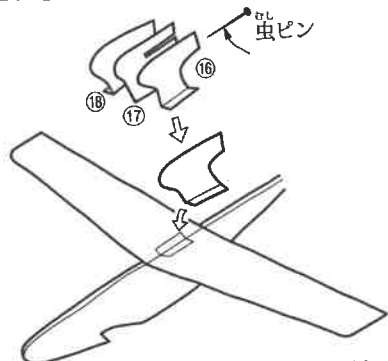
虫ピン

10 プロペラをつくる。

① ⑲にのりをつけて虫ピンに巻きつけ、プロペラハブ(プロペラの軸の通る部品)をつくり虫ピンを抜いておく。

② プロペラの羽根⑳と㉑の両端を図のように曲げ、プロペラハブ⑲を中心にして両側から抱くようにのりではりつける。

③ のりがよく乾いたら、プロペラの羽根を図のようにそれぞれ逆にねじる。

④ プロペラを虫ピンに通して虫ピンをエンジンの後端にさしこみ、両方の羽根のバランスがとれるように切りそろえ、ゆるくまわるようにする。

9 エンジン部⑯+⑰+⑱を主翼中央の四角いわくの中にとりつける。

仕上げ　仕上げはのりが十分に乾いてからすること。

11 主翼面を指で少しわん曲させて、「キャンバー・ゲージ」に合わせてキャンバーをつける。

12 主翼の下から「上反角ゲージ」をあて、8°の上反角を確かめる。

13 機体を手にもち、まっすぐ前から見て、また後ろからも見て、胴体と翼のねじれ、曲がりをていねいに直す。また機体を真上から見て、垂直尾翼が胴体と完全に平行であることを確かめる。

14 機体の正面から息をふきかけて、プロペラがスムースにまわることを確かめる。

試験飛行　9ページの「試験飛行」の説明にしたがってテストをする。

「子供の科学」紙飛行機40周年記念　**複葉飛行艇**(N-2240)

10 下主翼⑬+⑭の中心線に定規をあてて、「上反角ゲージ」に合わせて7°の上反角をつける。

11 下主翼の中心線が胴体の厚さの中心に合うように、また下主翼の前へりと、胴体ののりしろの前へりとが一致するようにして、下主翼を胴体にはりつける。

16 上主翼⑫の中心線に定規をあてて、「上反角ゲージ」に合わせて7°の上反角をつける。

15 支柱㉑+㉒と㉓+㉔の下端をそれぞれ、下主翼左右の中印の中にはりつける。

9 尾翼⑱+⑲+⑳を胴体の後端にはりつける。

12 エンジン部⑮+⑯+⑰を下主翼の中心線上にはりつける。

17 上主翼⑱の中央をエンジン部の上端にはりつける（上主翼と左右の支柱の上端とは、まだはり合わせない）。このとき、上下の主翼が平行にとりつけられるように、上下、前後から見てよく確かめる。

13 胴体ののりしろの後ろのはり出し部分を下図のように、エンジン部ののりしろの上に折り返してはりつける。

14 機体を前から見て、エンジン部を胴体に対し、まっすぐに立てる。

18 前から見て、胴体の垂直面と支柱とが平行になるように、支柱の上端を上主翼にはりつける。

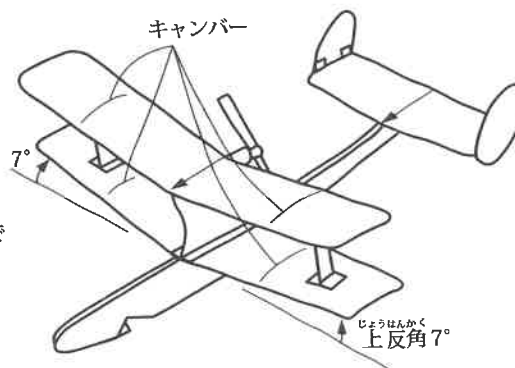
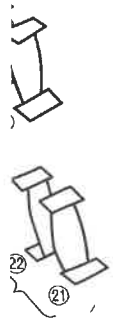
仕上げ　仕上げはのりが十分に乾いてからすること。

19 のりが十分に乾いたら「キャンバー・ゲージ」に合わせて上、下の主翼面に指でていねいにキャンバーをつける。

20 下主翼に「上反角ゲージ」をあてて、上反角7°を確かめる。

21 機体を手にもち、まっすぐ前から見て、また後ろからも見て、胴体と翼のねじれ、曲がりをていねいに直す。また機体を真上から見て、垂直尾翼が胴体と完全に平行であることを確かめる。

22 虫ピンにプロペラを通して、エンジン部の後ろからさしこむ。機体の正面から息をふきかけて、プロペラがスムースにまわることを確かめる。

キャンバー
7°
上反角7°

試験飛行　9ページの「試験飛行」の説明にしたがってテストをする。

双発飛行艇(N-2384)

はり合わせ 1 2…の番号にしたがって順序よくつくる。のりは「セメダインC」がよい。

1 主翼⑩の裏に⑪をはりつけ、十分に乾かす。

2 のりしろを折り曲げておく。

3 機首を一致させて①〜⑨をはり合わせる。

4 水平尾翼⑬ののりしろを図のように上、下に折り曲げる。この折り曲げ線に合わせて垂直尾翼⑭、⑮を左右にはりつける。

5 尾翼⑬+⑭+⑮を胴体後端にはりつける。

6 主翼が乾いたら左、右の上反角線の前後端を上から針で刺して裏面に出来る針穴を鉛筆でつないでおく(エンジンを正確にとりつけるため)。

7 主翼に定規をあてて中央から上に折り曲げ、また上反角線から少し下に折り曲げ「上反角ゲージ」に合わせて15°と7°の上反角をつける。

8 主翼⑩+⑪を胴体にはりつける。

9 ⑯、⑱ののりしろを折る。⑯⑰⑱をはり合わせて左エンジンをつくる。このとき後ろから虫ピンをさしこんでおき、乾いたら抜く。

10 左エンジン⑯+⑰+⑱を左主翼の裏に引いた上反角線に合わせてとりつける。

11 ⑲、⑳、㉑により右エンジンをつくり、右主翼の裏に引いた上反角線に合わせてとりつける。

12 23ページ10を参考に㉒、㉓、㉔によりプロペラをつくる。
説明を共通にしたために部品番号が違うので注意。

13 ㉕㉖㉗によってもう1個のプロペラをつくり、エンジンにとりつける。なお、実物の双発機では、コストの関係で左右のプロペラが同方向の回転のものが多いが、紙飛行機の場合は、2つのプロペラを逆にねじって、逆方向の回転にしておけば理想的な双発機ができる。

仕上げ 仕上げはのりが十分に乾いてからすること。

14 主翼面を指で少しわん曲させて「キャンバー・ゲージ」に合わせてキャンバーをつける。

15 主翼の下から「上反角ゲージ」をあて、15°と7°の上反角を確かめる。

16 主翼の中心線に部品⑫を少し折って貼り、上反角を固定する。

17 機体を手にもち、まっすぐ前から見て、また後ろからも見て、胴体と翼のねじれ、曲がりをていねいに直す。また機体を真上から見て、垂直尾翼が胴体と完全に平行であることを確かめる。

18 機体の正面から息をふきかけて、プロペラがスムースにまわることを確かめる。

試験飛行 9ページの「試験飛行」の説明にしたがってテストをする。

②

③

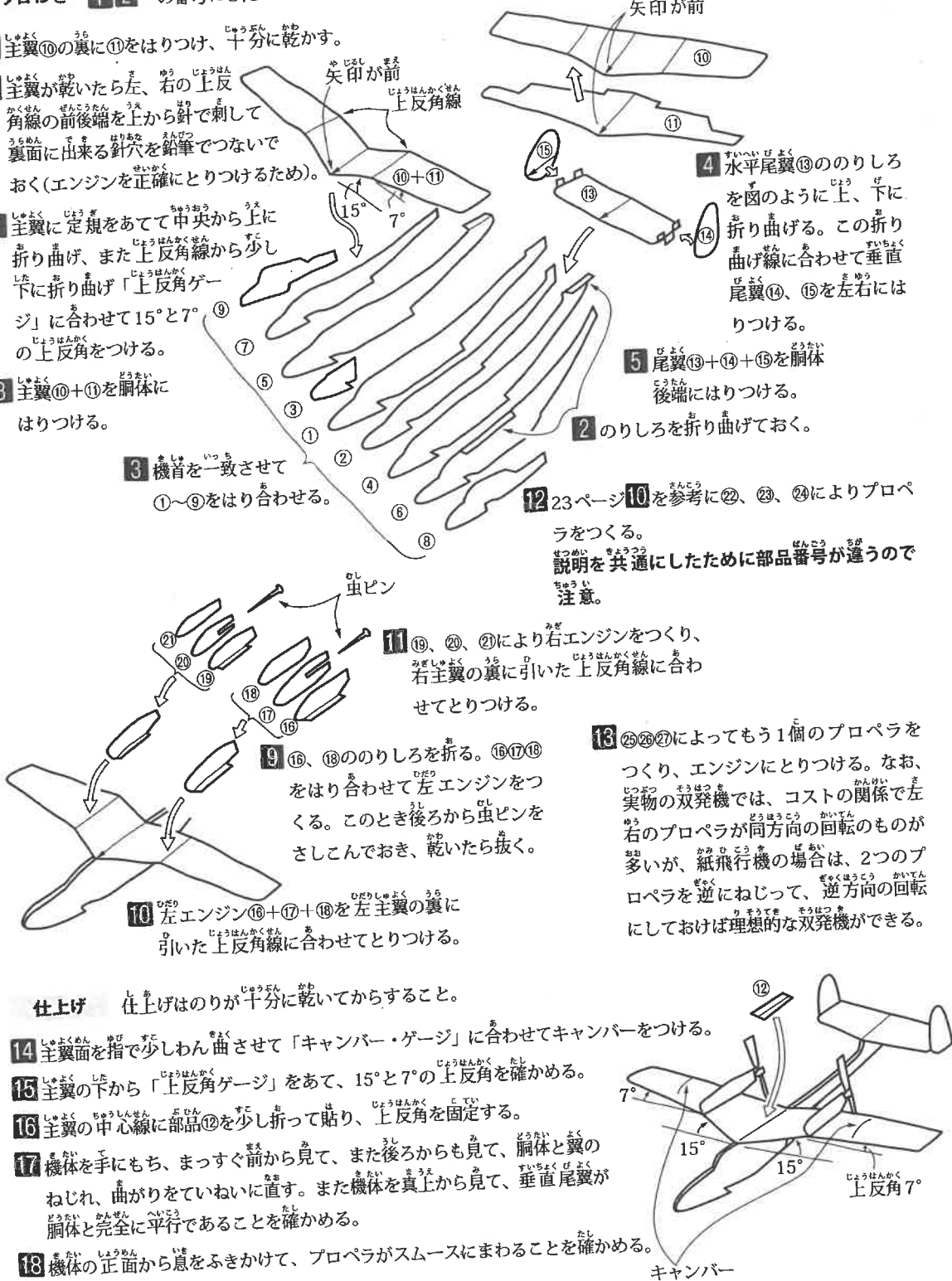
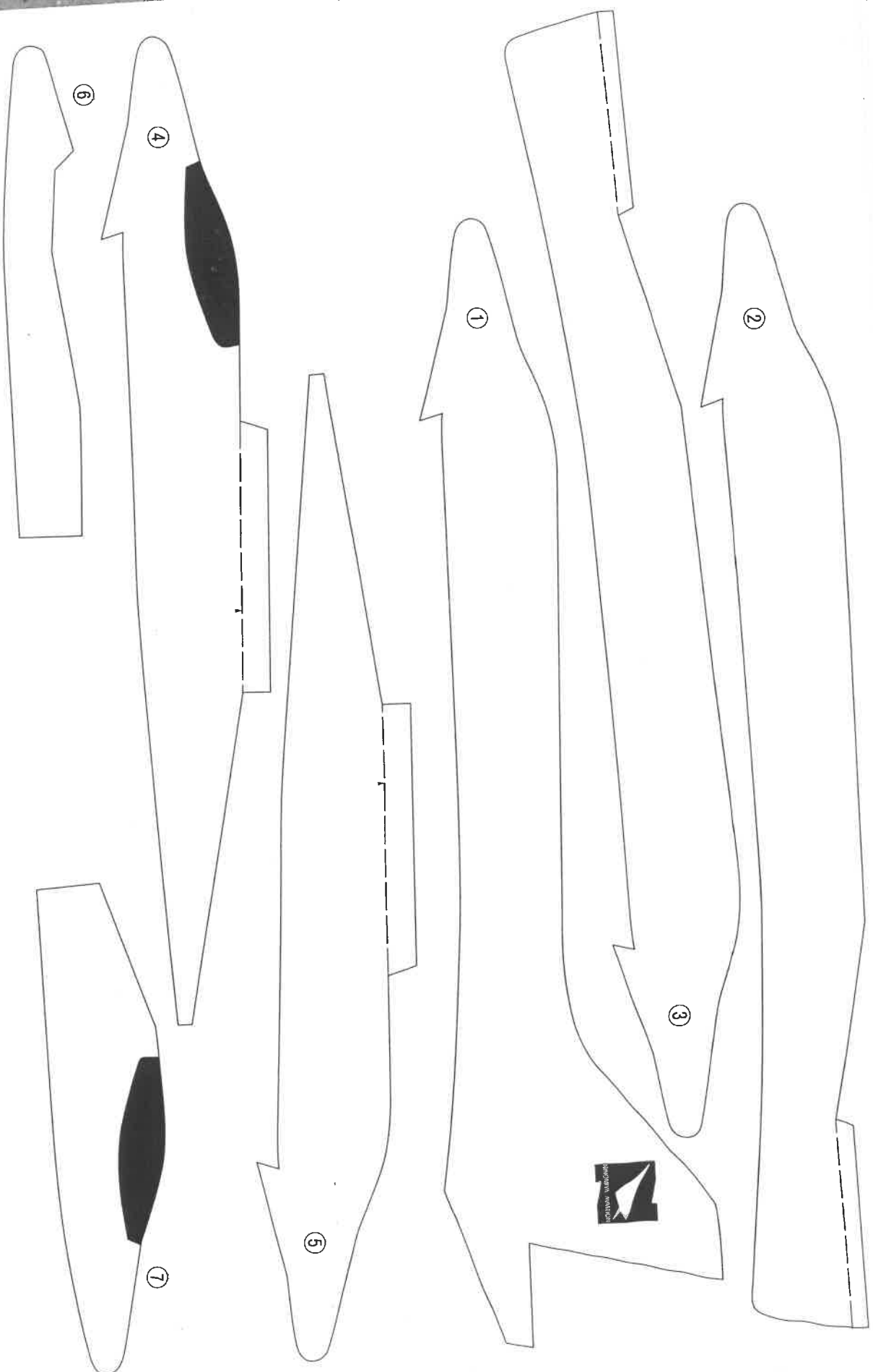
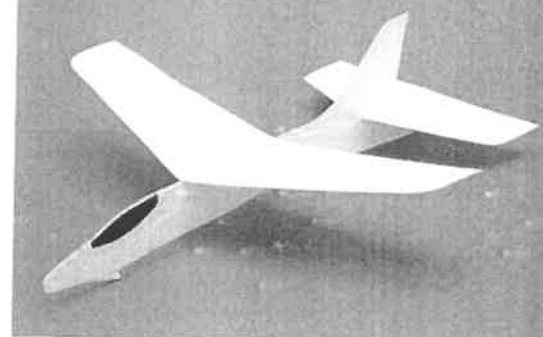
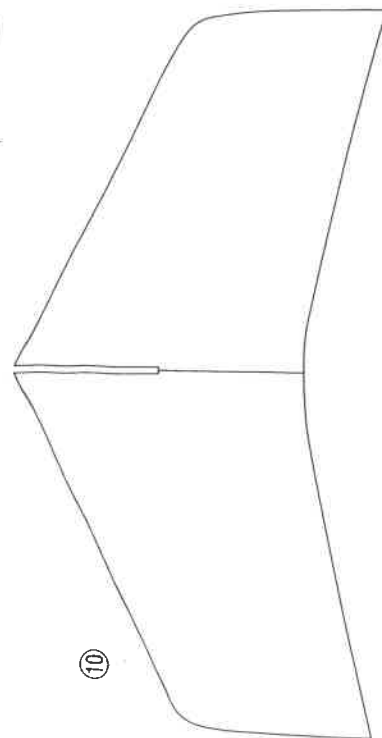
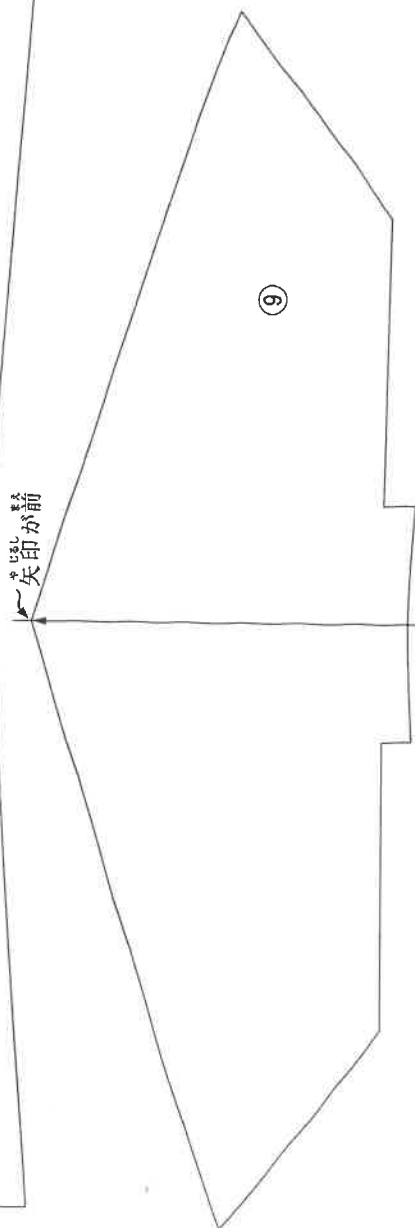
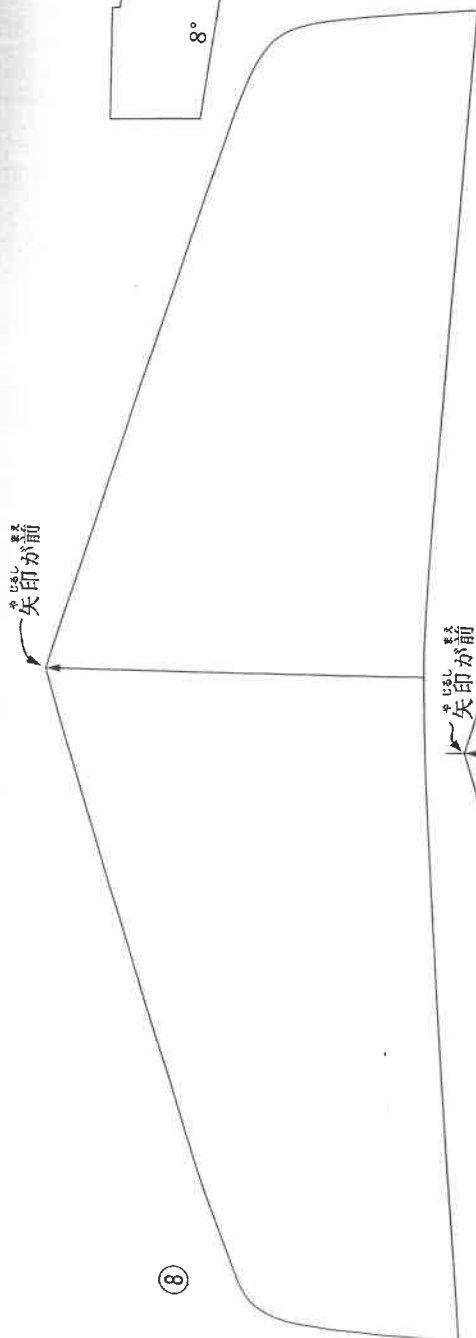
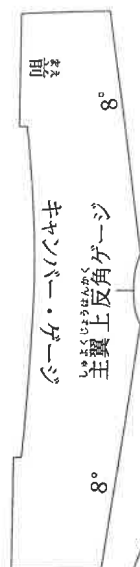
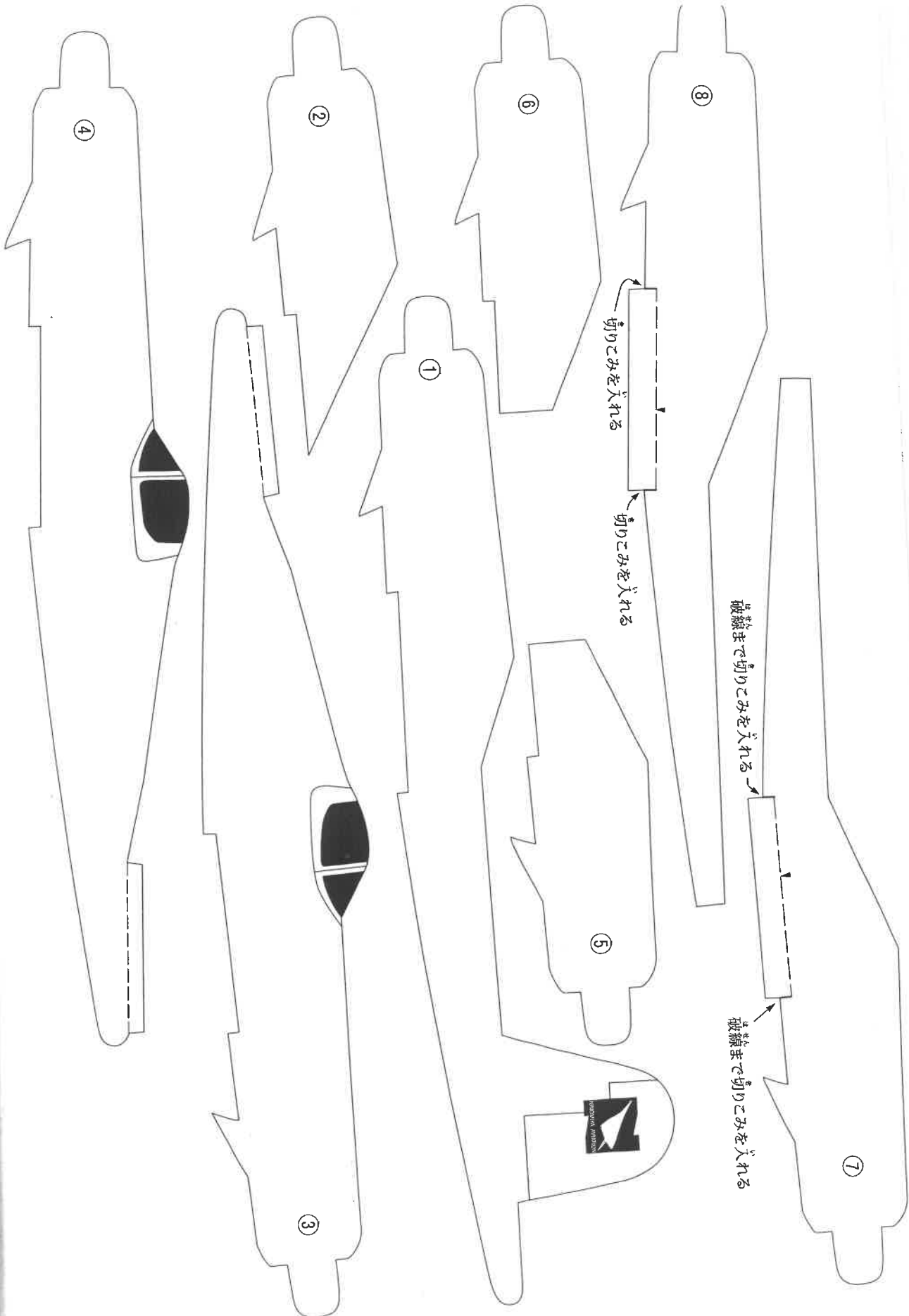
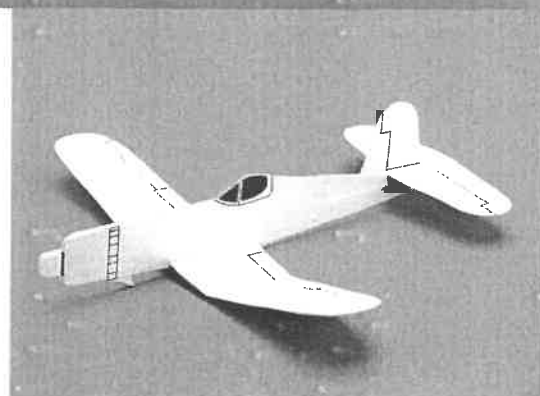
①

⑤

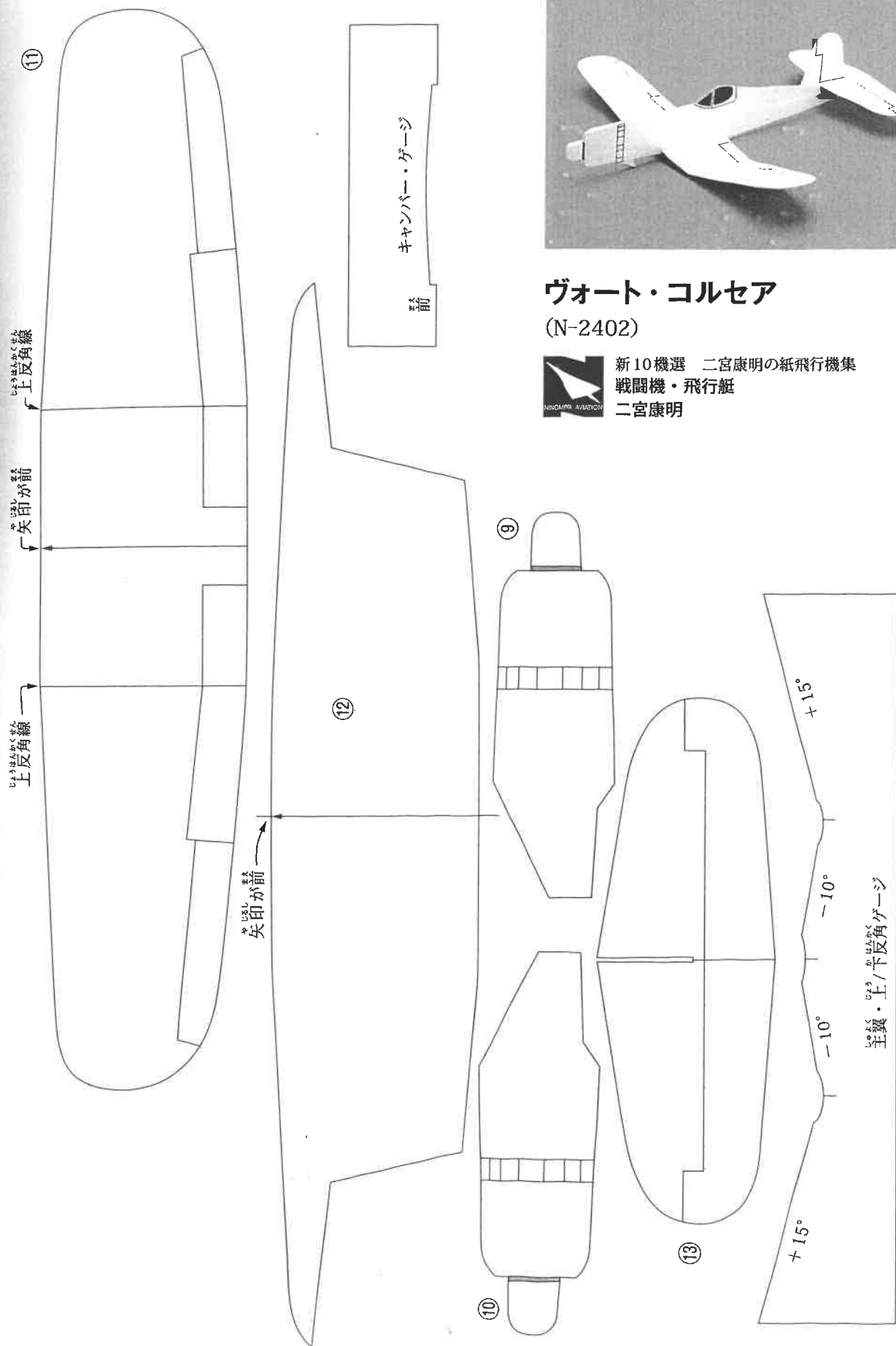
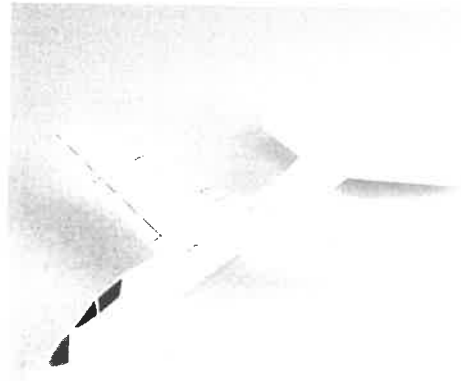
④

⑦

⑥

矢印が前

主翼上反角ゲージ
キャンバー・ゲージ
8°
8°
前
水平尾翼下反角ゲージ
−5°
−5°
矢印が前
矢印が前
⑧
⑨
⑩
⑥
ジェット・ファイター
(N-2420)
新10機選　二宮康明の紙飛行機集
戦闘機・飛行艇
二宮康明
NINOMIYA AVIATION

⑦
破線まで切りこみを入れる
破線まで切りこみを入れる
⑧
切りこみを入れる
切りこみを入れる
⑤
⑥
①
②
③
④
上反角線
矢印が前
上反角線

ヴォート・コルセア

(N-2402)

新10機選　二宮康明の紙飛行機集
戦闘機・飛行艇
二宮康明

米国ヴォート社の

F-8“クルセーダー”(N-2416)

新10機選　二宮康明の紙飛行機集
戦闘機・飛行艇
二宮康明

⑩

⑧

矢印が前

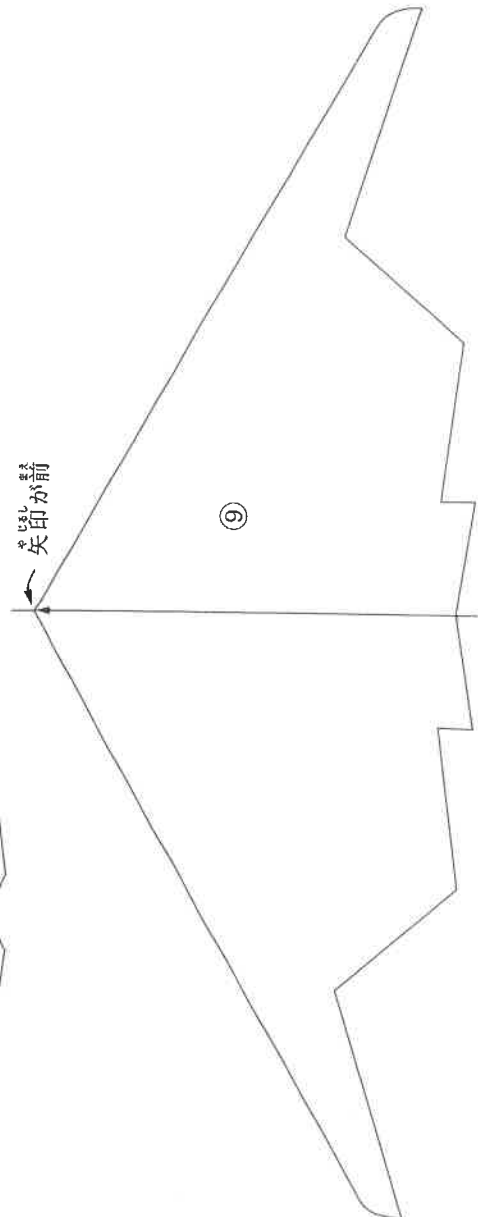
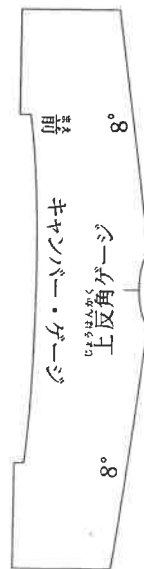
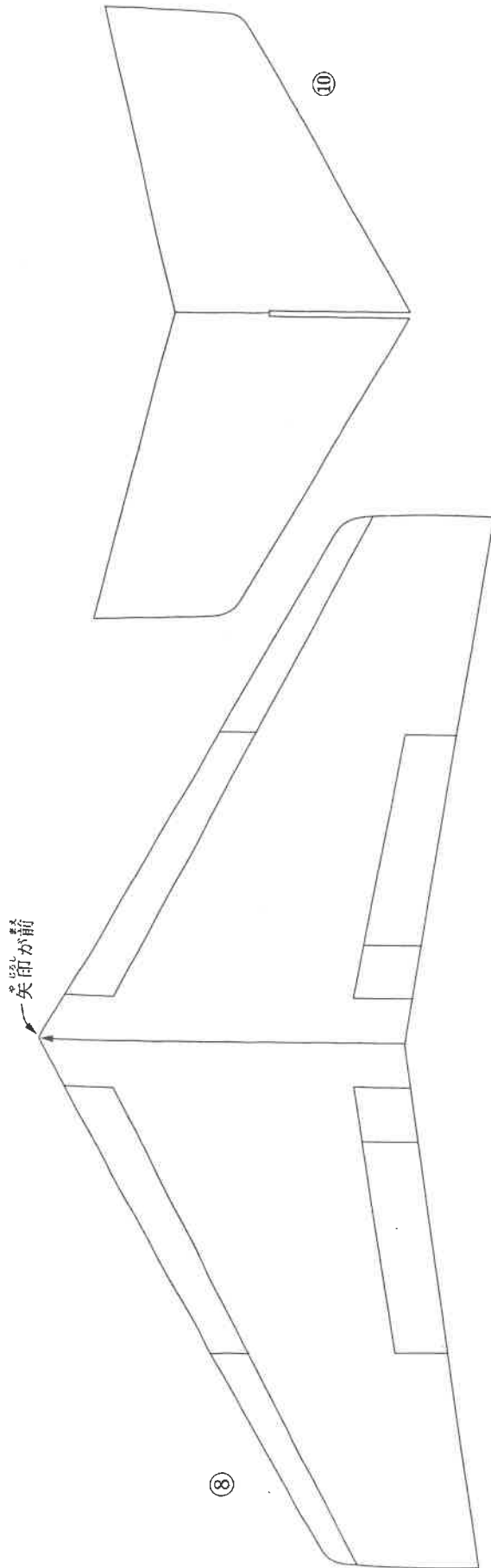
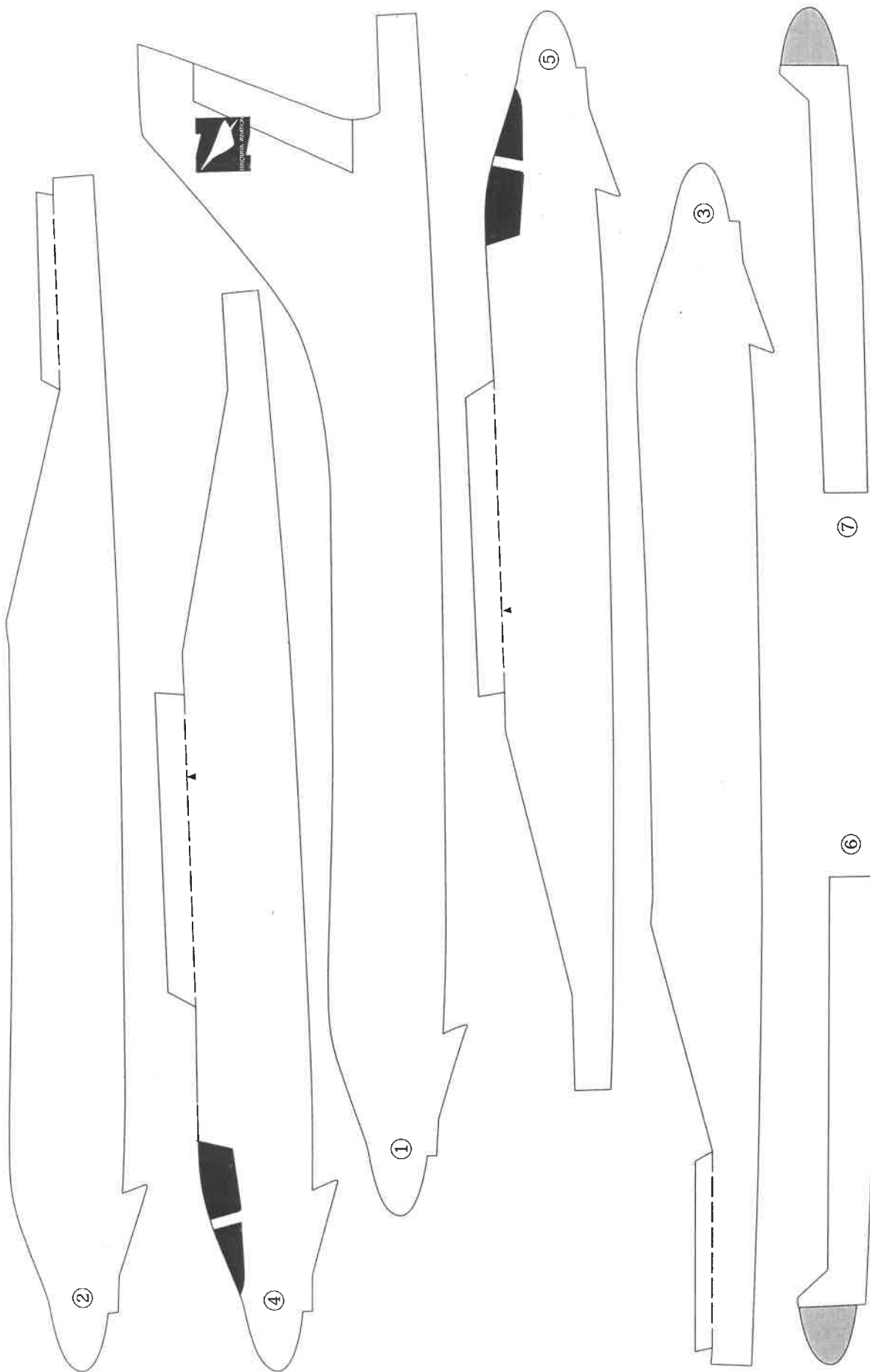
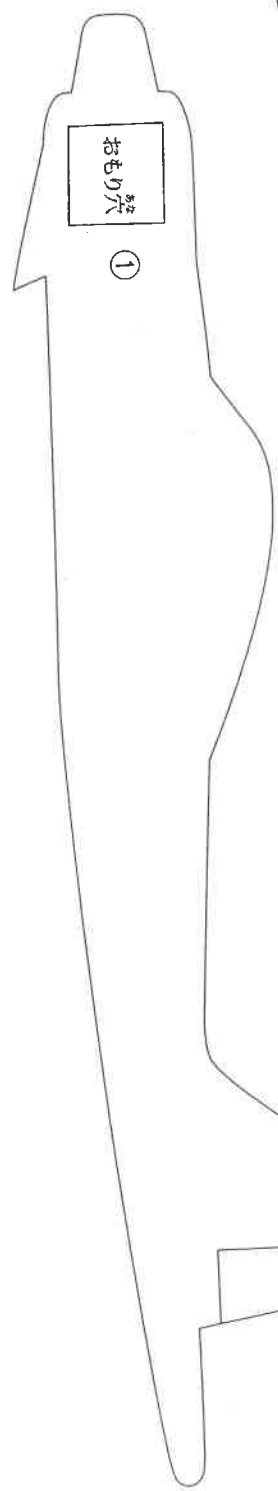
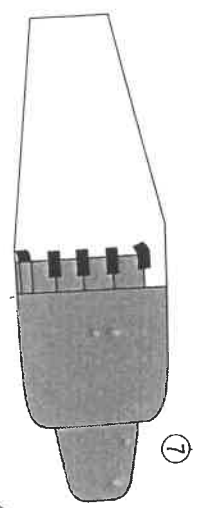
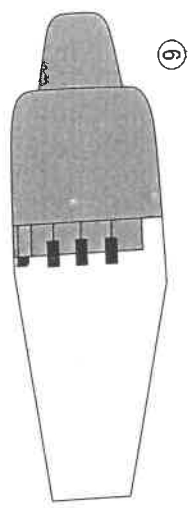
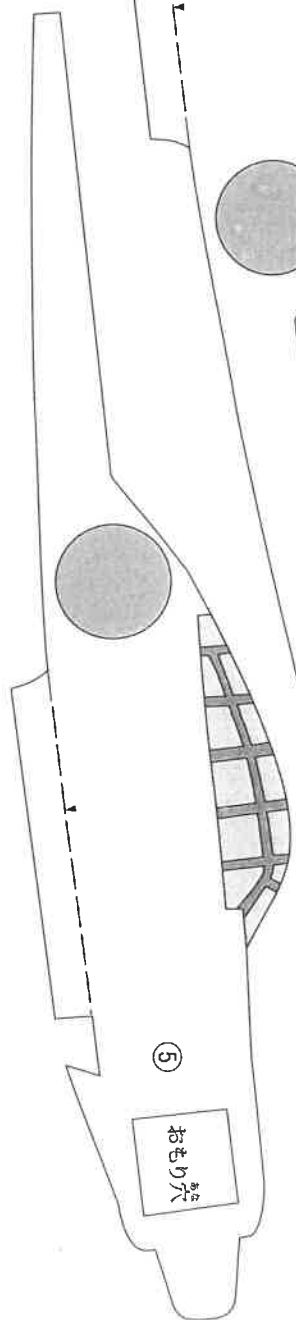
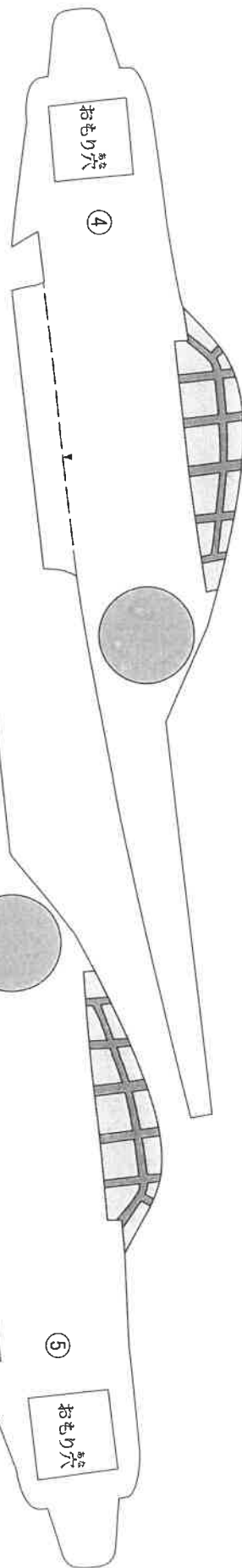
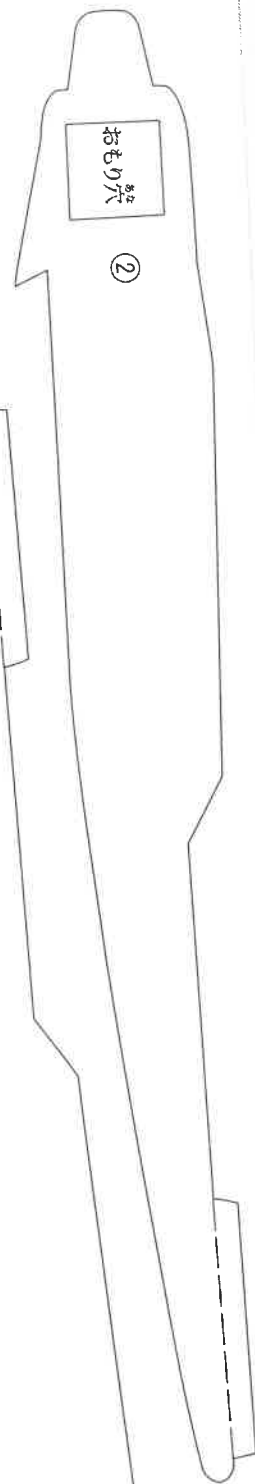
上反角ゲージ

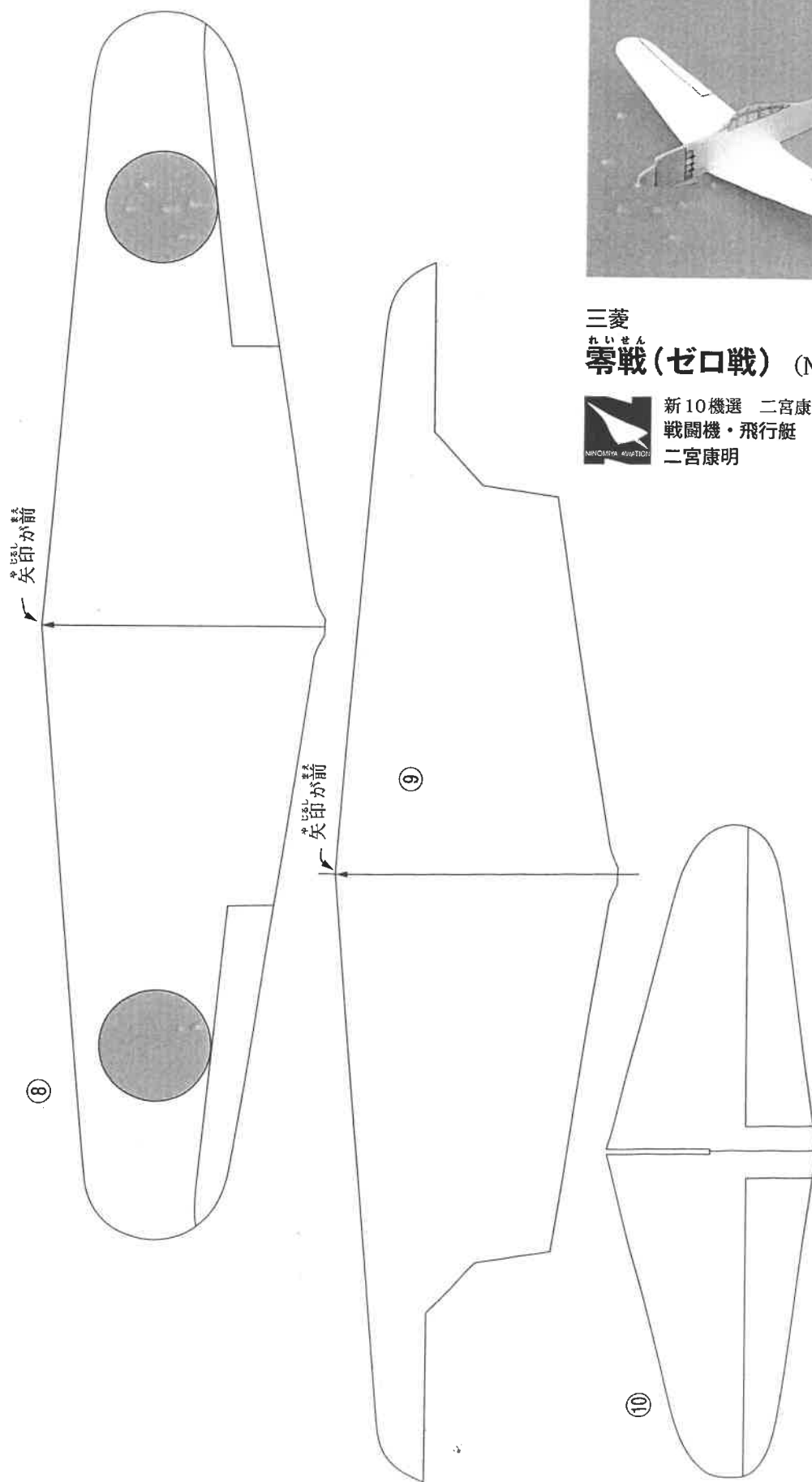
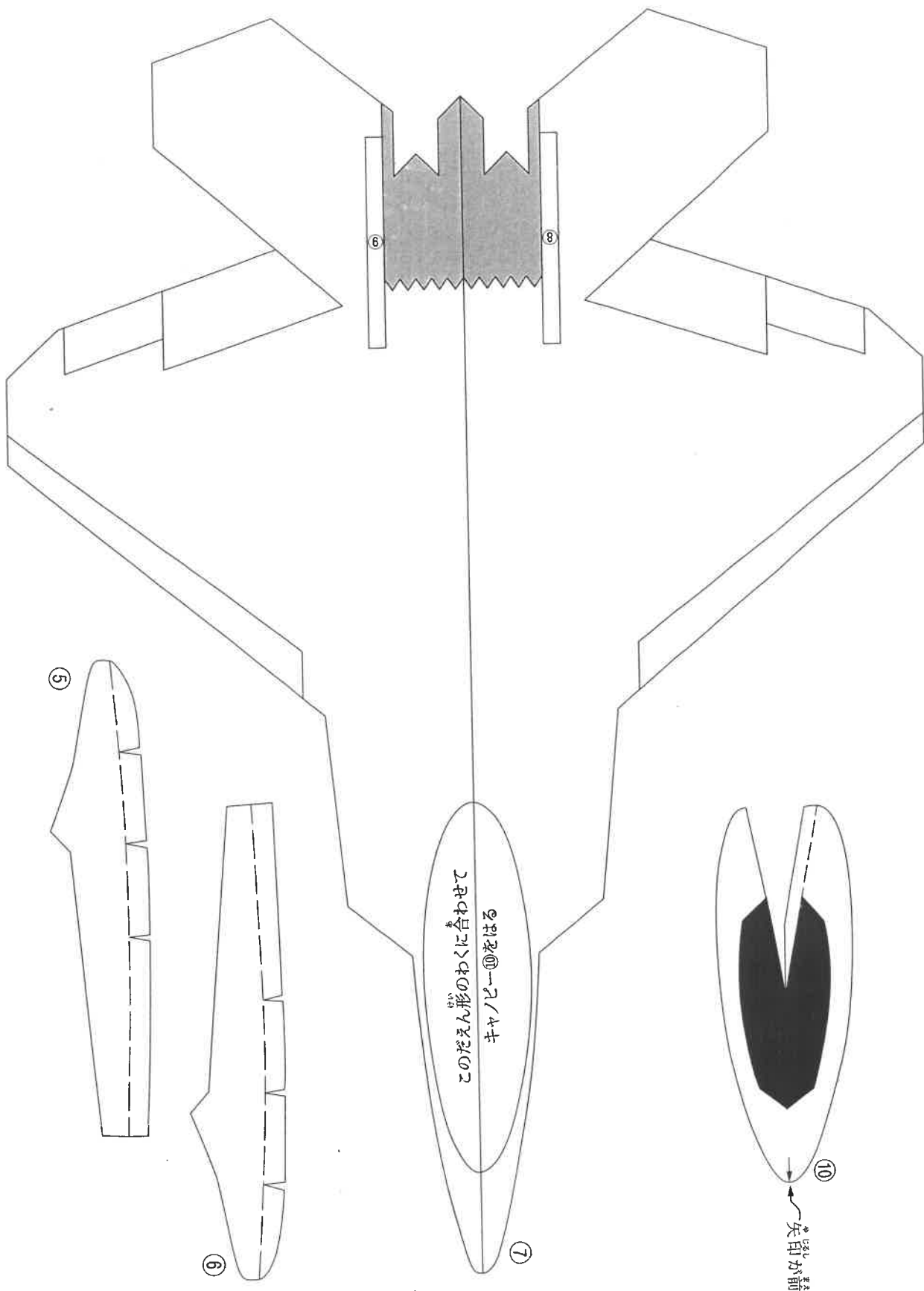
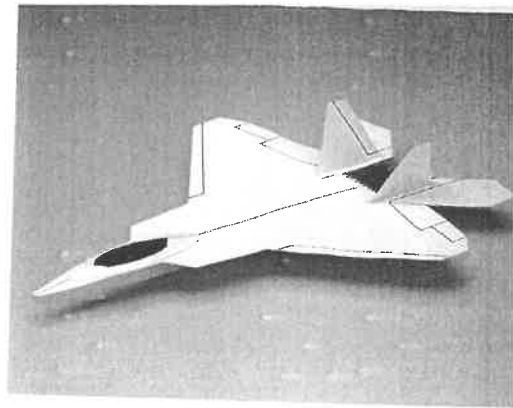
キャンバー・ゲージ

前

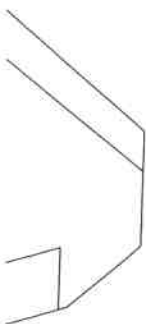
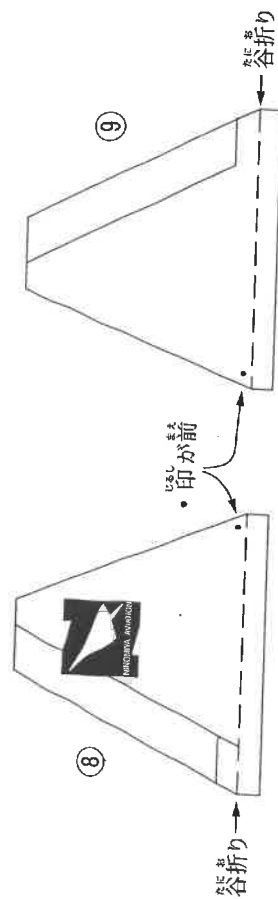
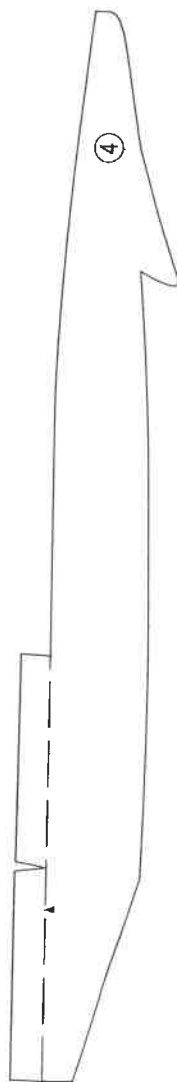
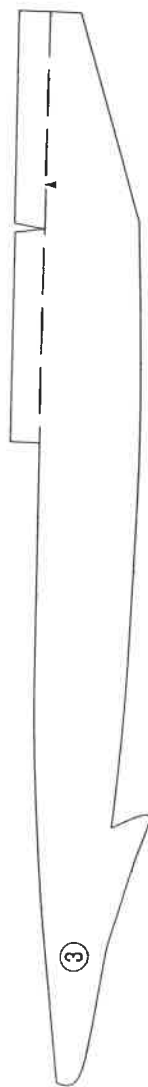
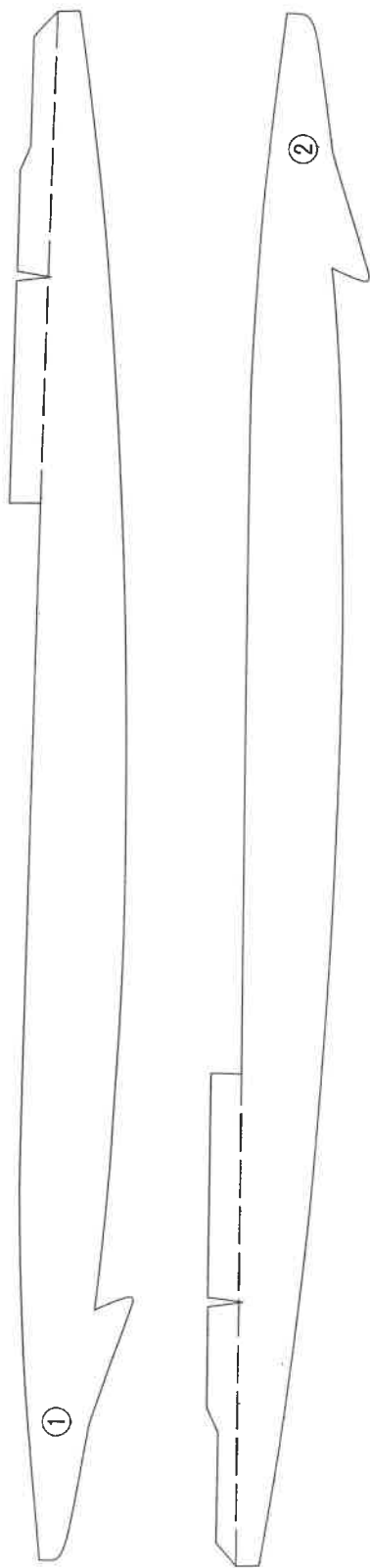
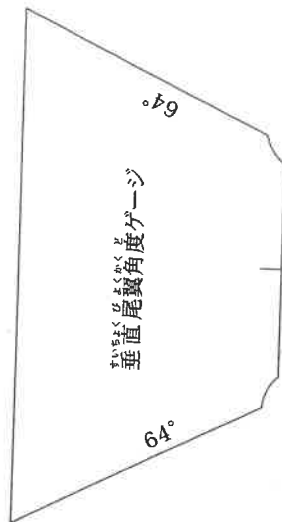
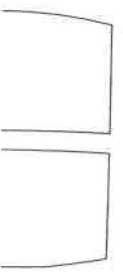
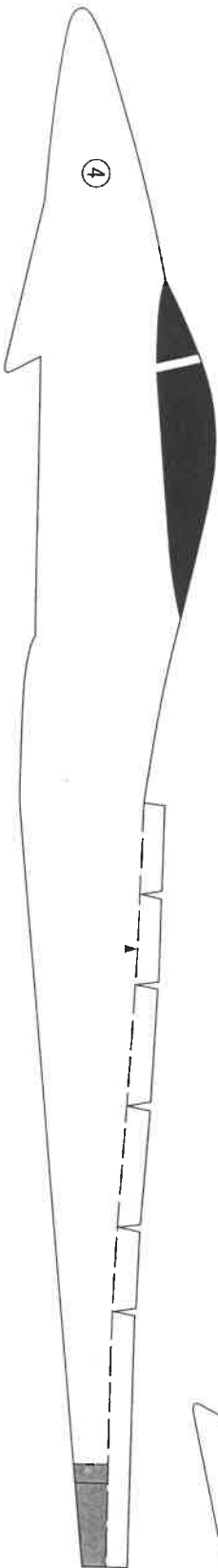
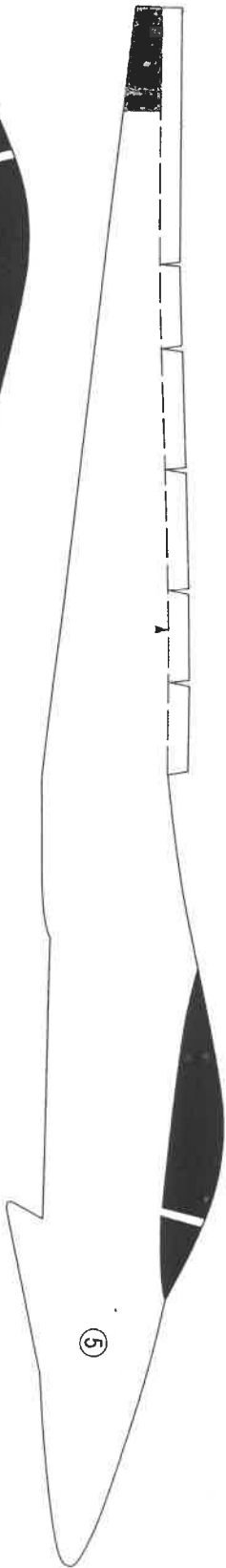
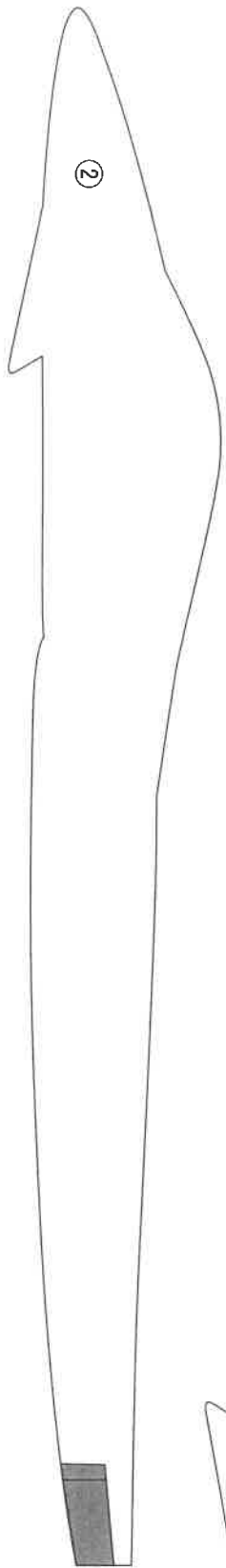
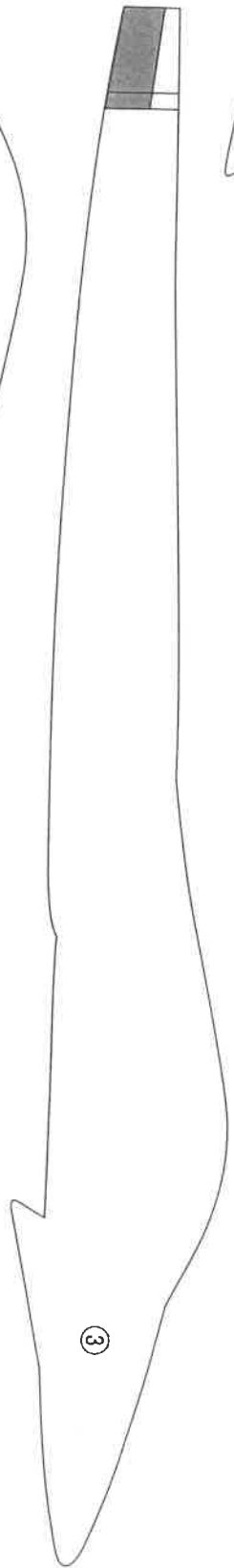
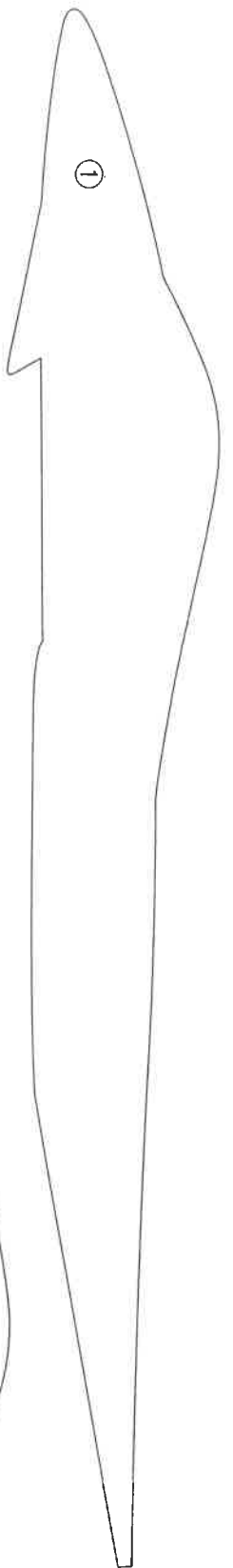
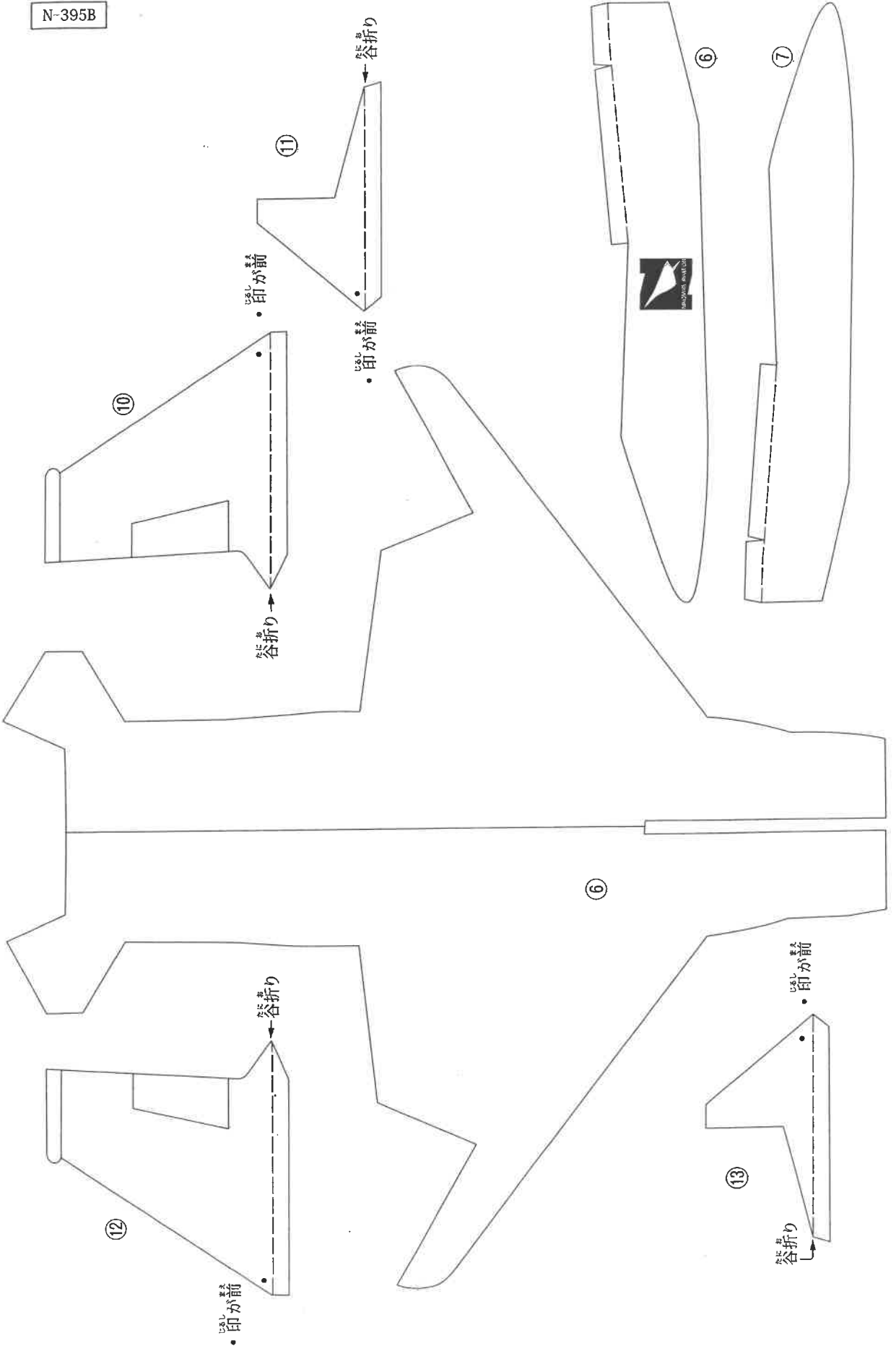
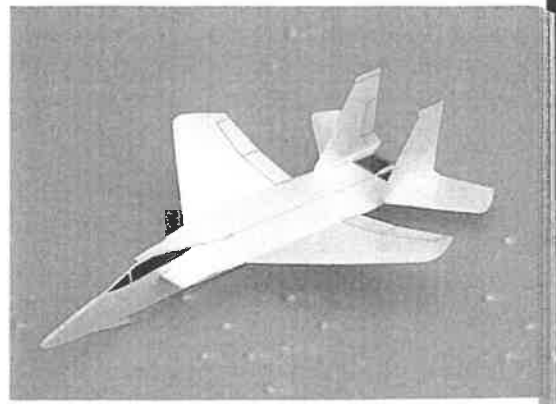
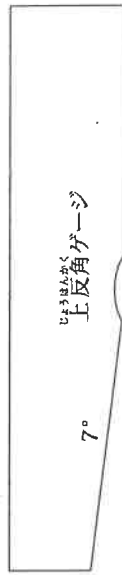
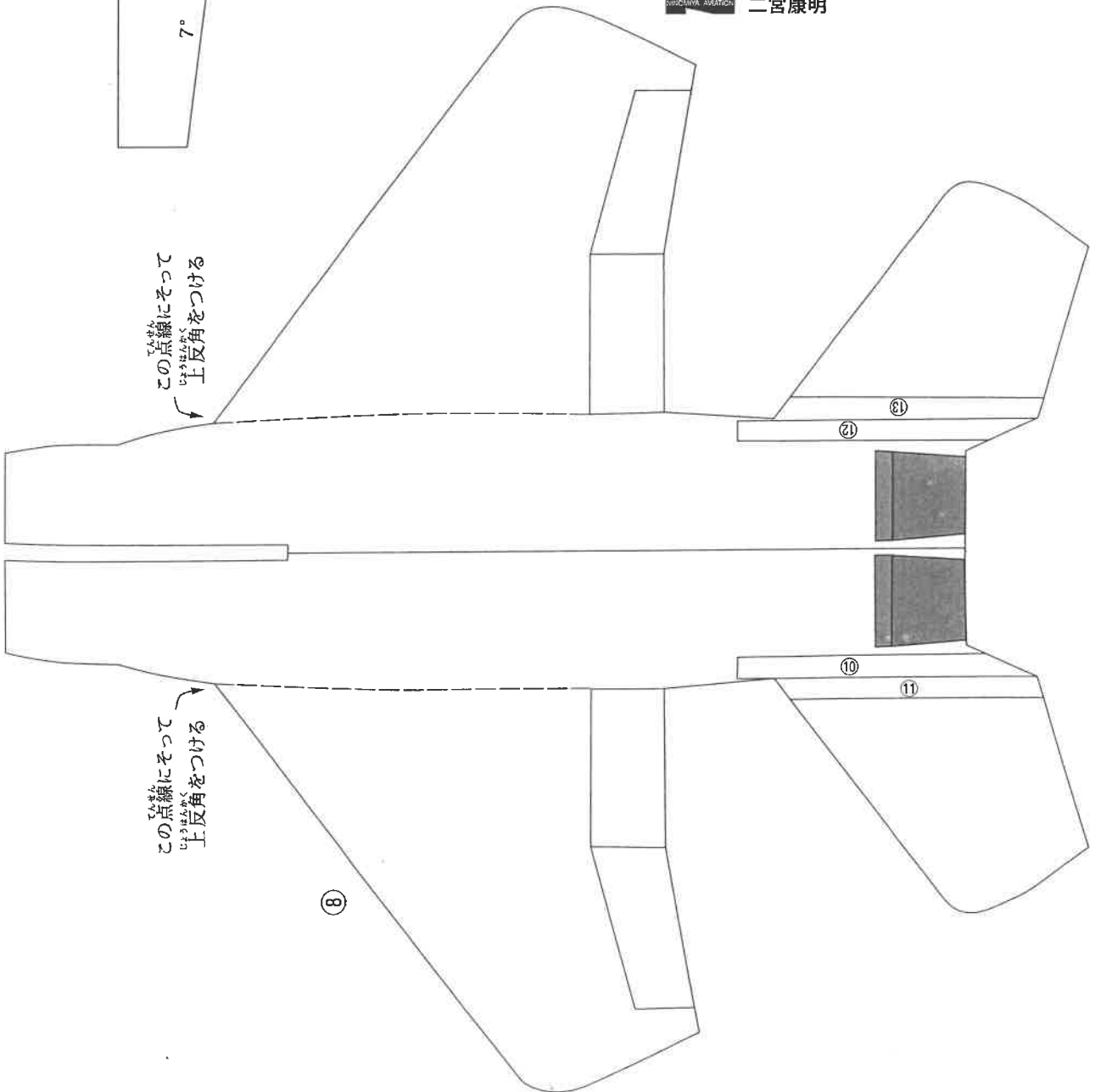
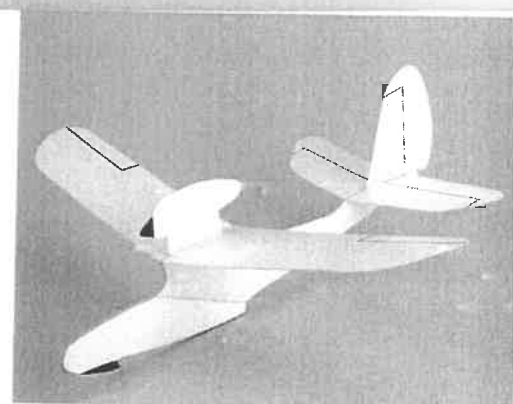
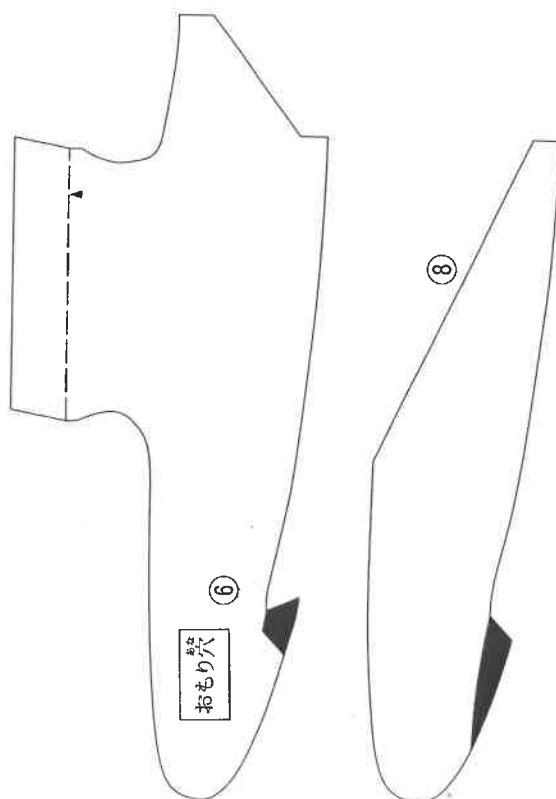
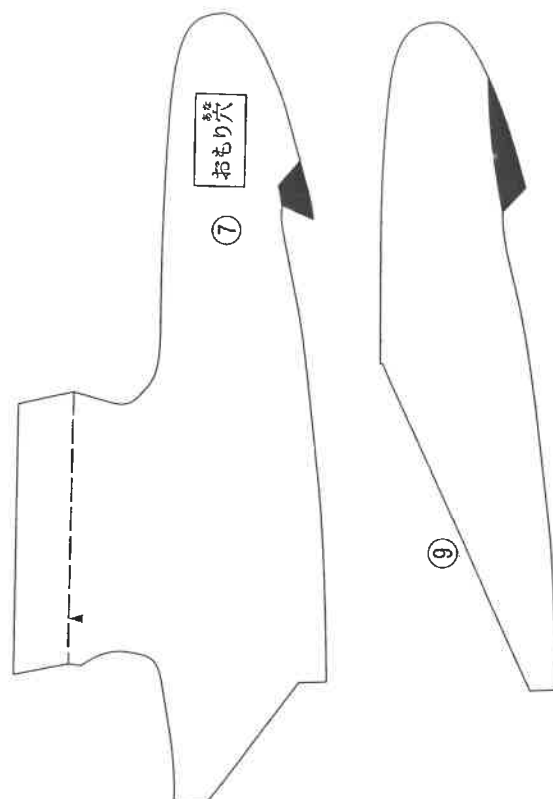
8°

8°

おもり穴
②
③
おもり穴
おもり穴
④
⑤
おもり穴
⑥
⑦
おもり穴
①

三菱
零戦（ゼロ戦）（N-2562）
新10機選　二宮康明の紙飛行機集
戦闘機・飛行艇
二宮康明
NINOMIYA AVIATION
矢印が前
⑧
矢印が前
⑨
⑩
12°
12°
キャンバーゲージ
上反角ゲージ
前

⑩
矢印が前
⑦
このだえん形のわくに合わせて
キャノピー⑩をはる
⑧
⑨
⑥
⑤

垂直尾翼角度ゲージ
64°
64°
②
①
③
④
⑤
⑨
⑧
谷折り
谷折り
・印が前
NINOMIYA AVIATION
超音速巡航のできる
F-22 (N-1181)
新10機選　二宮康明の紙飛行機集
戦闘機・飛行艇
二宮康明

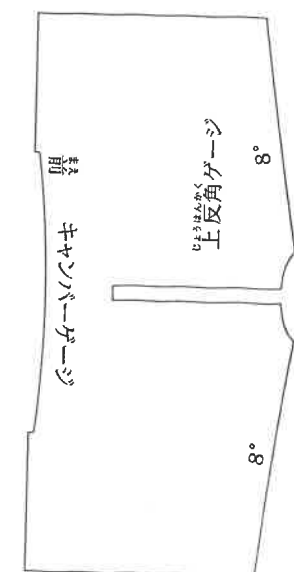
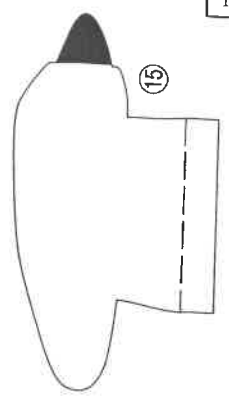
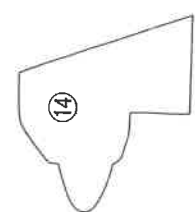
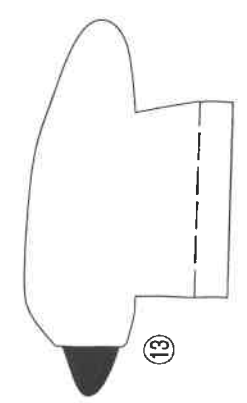
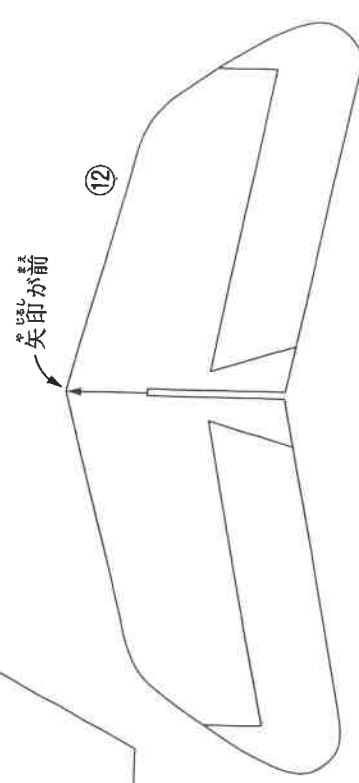
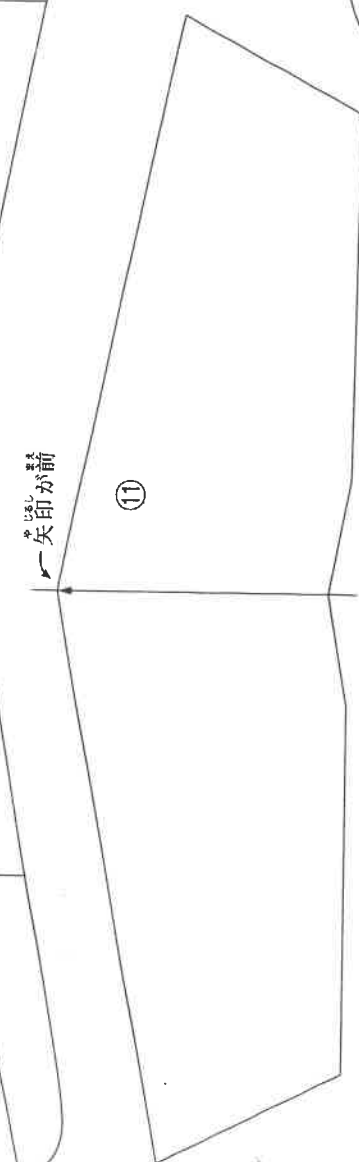
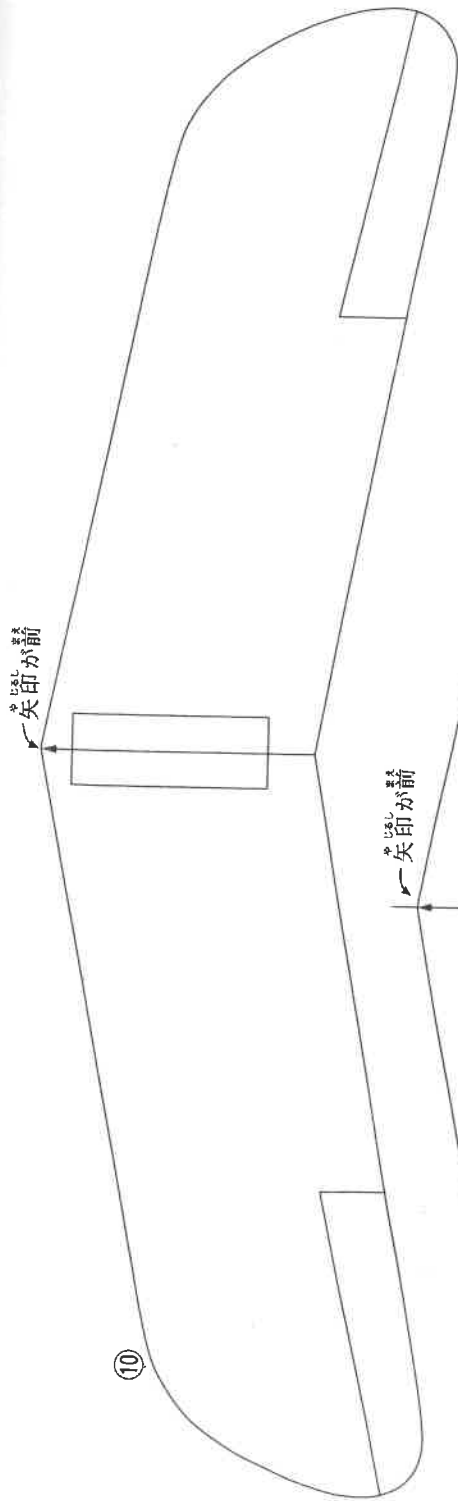
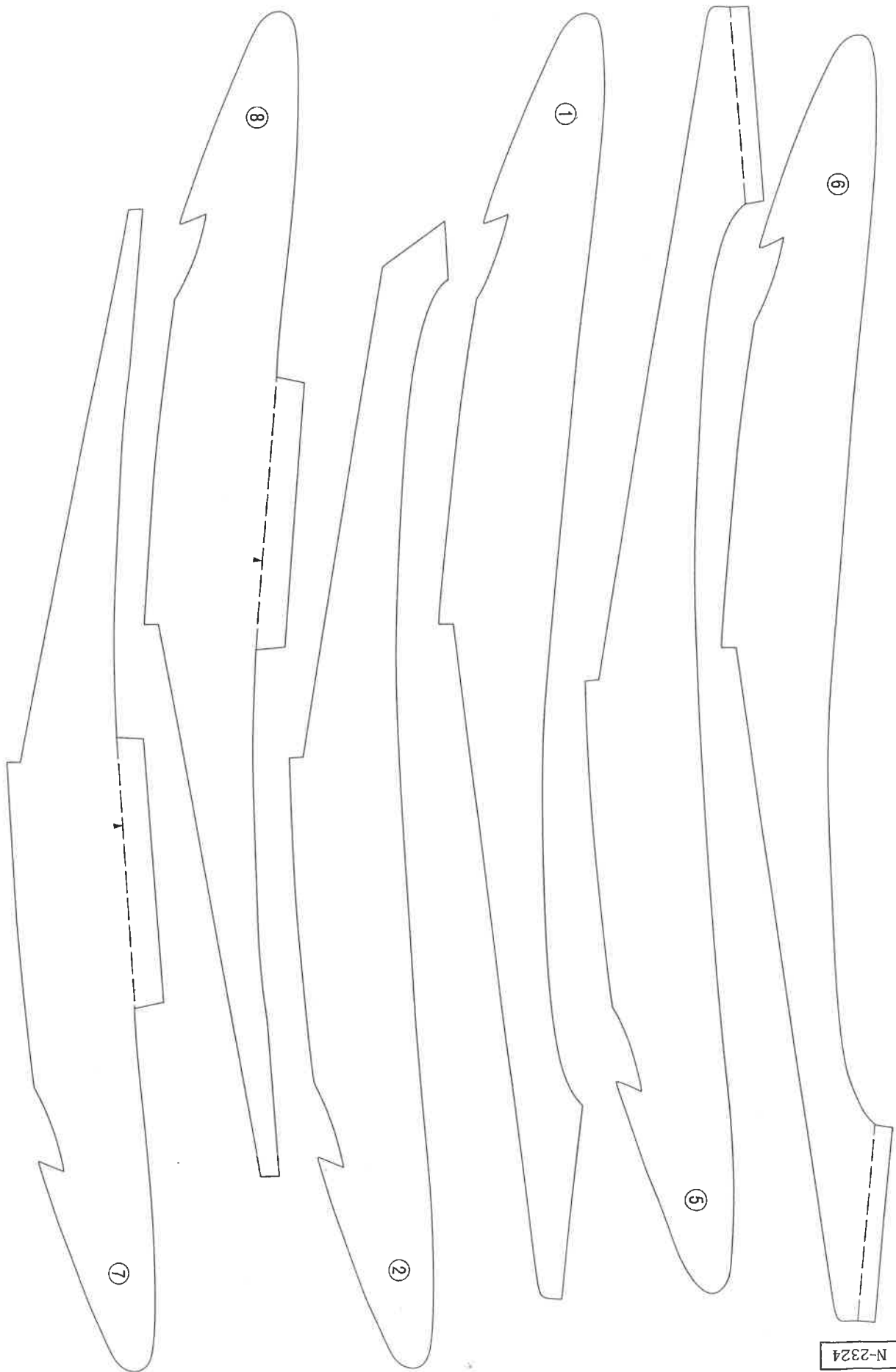
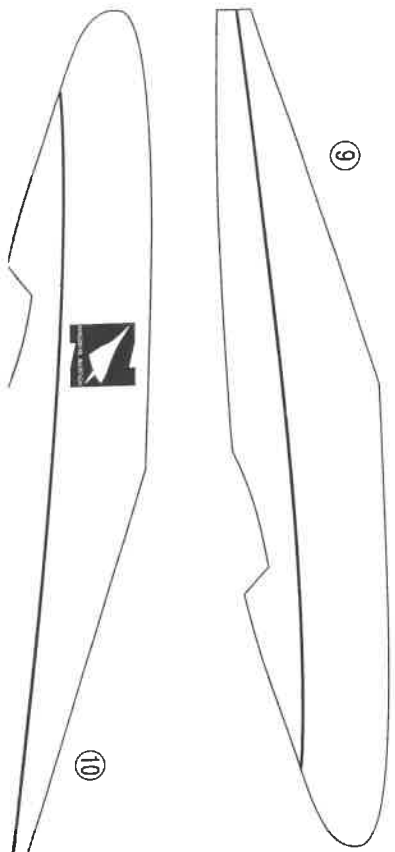
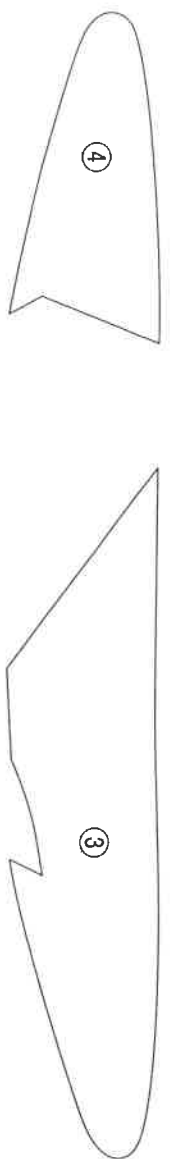
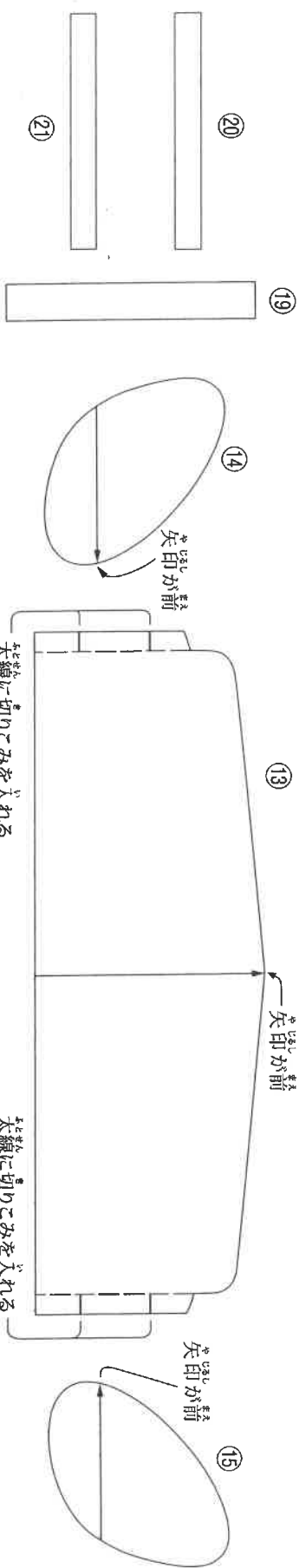
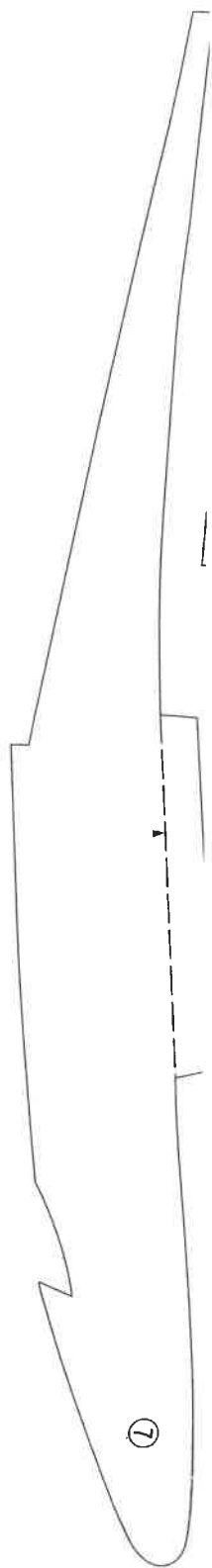
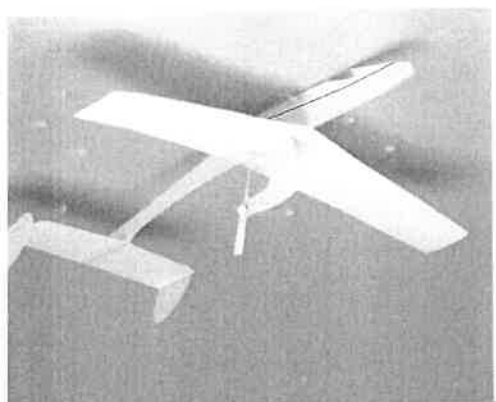
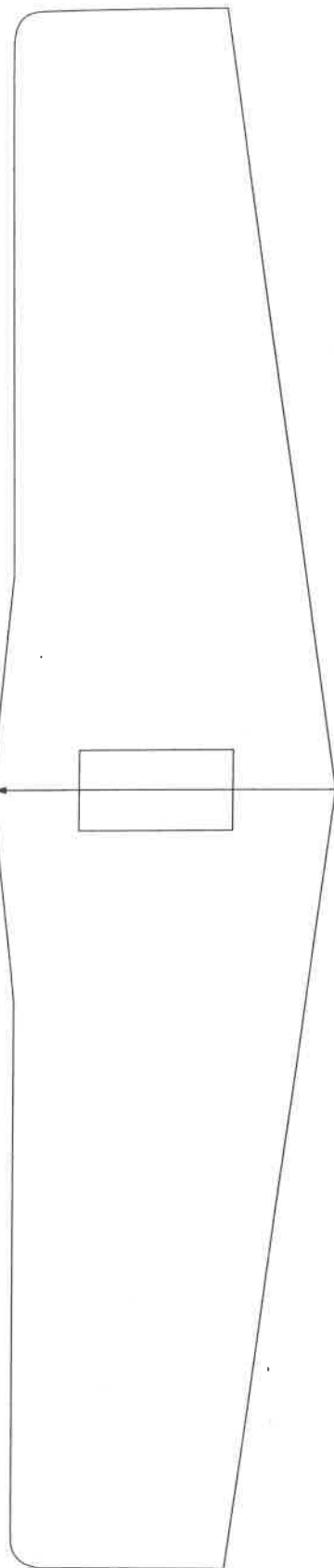
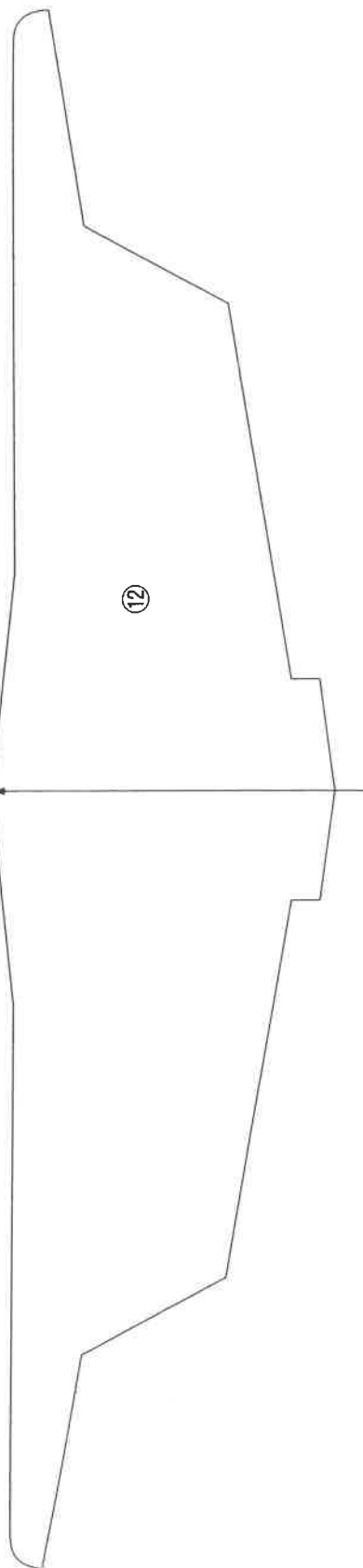
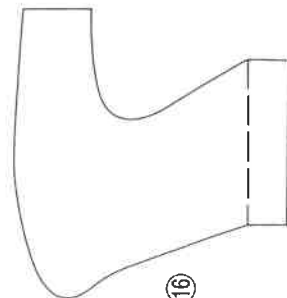
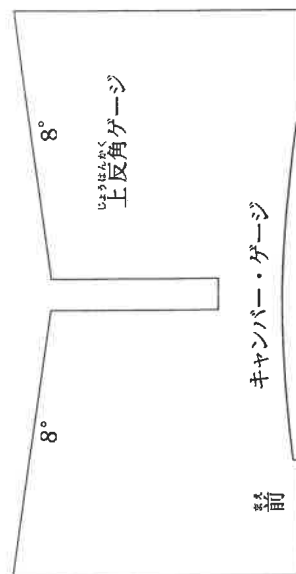
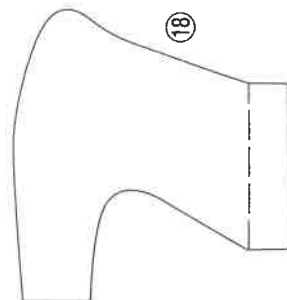
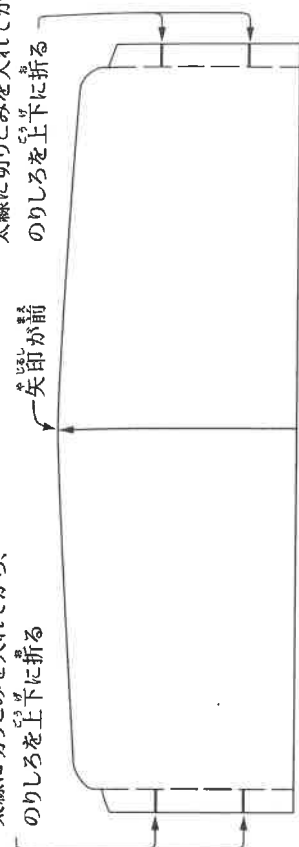
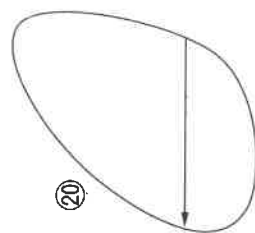
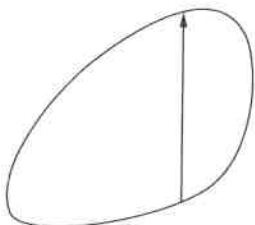
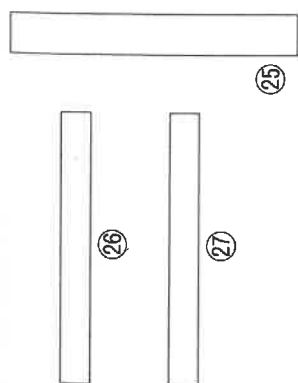
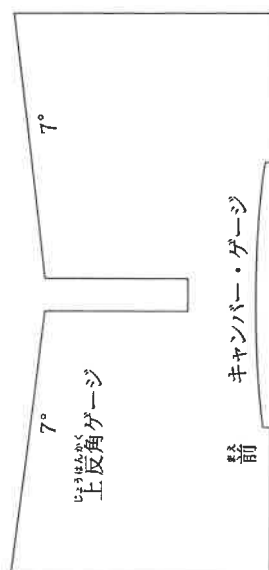
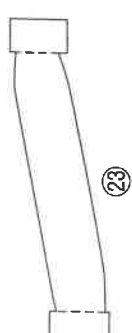
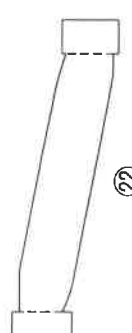
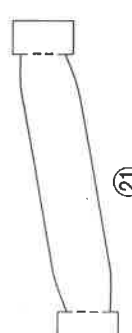
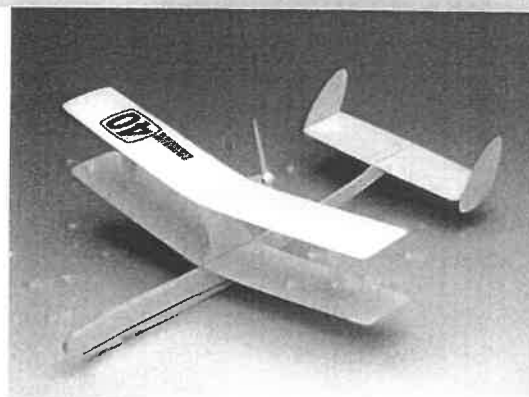
N-395B
①
③
②
⑤
④

N-395B
⑫
・印が前
谷折り
⑩
谷折り
・印が前
⑪
・印が前
谷折り
⑥
⑬
谷折り
・印が前
NINOMIYA AVIATION
⑥
⑦

日本の主力戦闘機
F-15 (N-395B)
新10機選　二宮康明の紙飛行機集
戦闘機・飛行艇
二宮康明
NINOMIYA AVIATION
上反角ゲージ
7°
この点線にそって上反角をつける
この点線にそって上反角をつける
⑧
⑩
⑪
⑫
⑬

試作戦闘飛行艇(N-2497)

新10機選　二宮康明の紙飛行機集
戦闘機・飛行艇
二宮康明

N-2497
NINOMIYA AVIATION
おもり穴 ②
おもり穴 ①
③ おもり穴
おもり穴 ④
⑤ おもり穴
矢印が前

矢印が前
⑩
矢印が前
⑪
矢印が前
⑫
キャンバーゲージ
前
上反角ゲージ
8°
8°
⑬
⑭
⑮
N-2497

N-2324
⑥
⑤
①
②
⑧
⑦

⑦
⑳
㉑
⑲
⑭
矢印が前
⑬
矢印が前
太線に切りこみを入れる
太線に切りこみを入れる
⑮
矢印が前
④
③
⑨
⑩
飛行艇(N-2324)
新10機選　二宮康明の紙飛行機集
戦闘機・飛行艇
二宮康明

⑪
矢印が前
矢印が前
⑫
⑯
⑰
⑱
8°
8°
上反角ゲージ
前
キャンバー・ゲージ
N-2324

「子供の科学」紙飛行機掲載40周年記念

複葉飛行艇(N-2240)

新10機選　二宮康明の紙飛行機集
戦闘機・飛行艇
二宮康明

太線に切りこみを入れてから、のりしろを上下に折る

矢印が前

⑱

⑳

矢印が前

⑲

太線に切りこみを入れてから、のりしろを上下に折る

7°

キャンバー・ゲージ

7°

上反角ゲージ

前

㉕

㉖

㉗

㉔

㉓

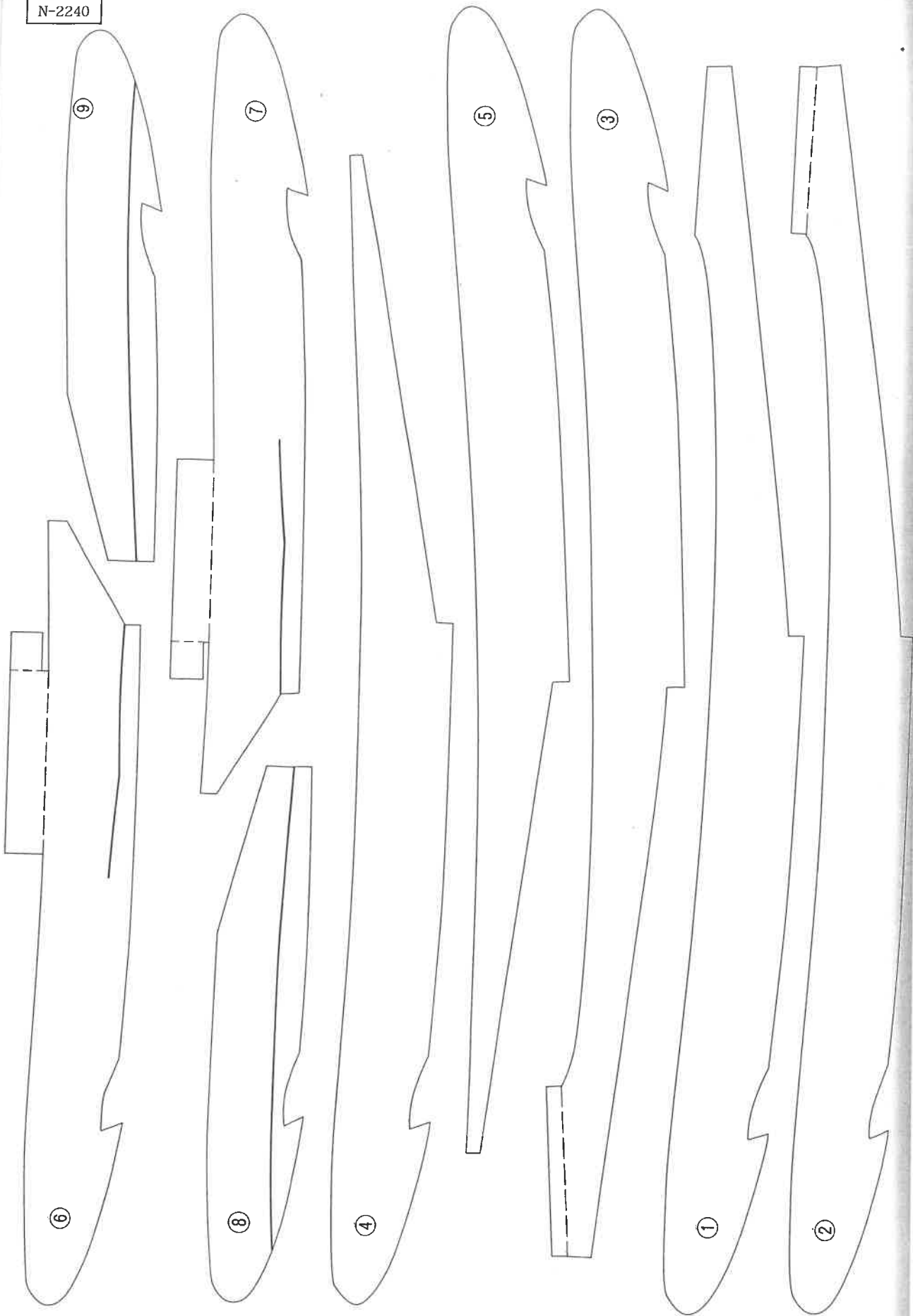
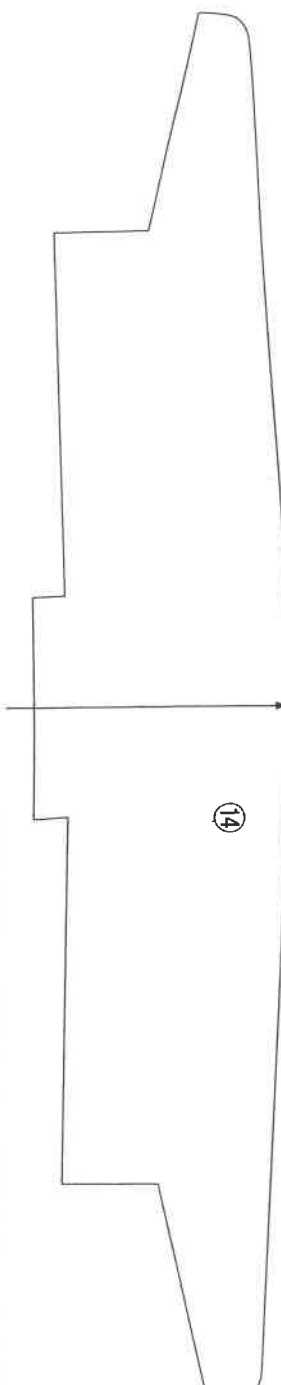
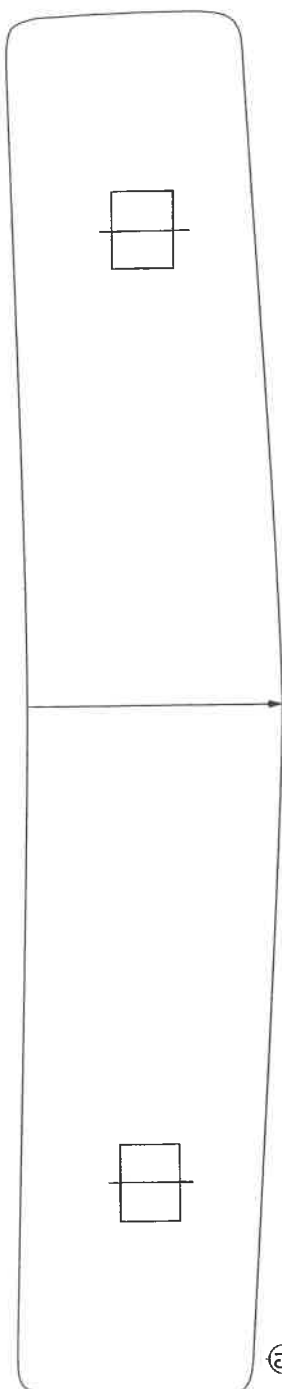
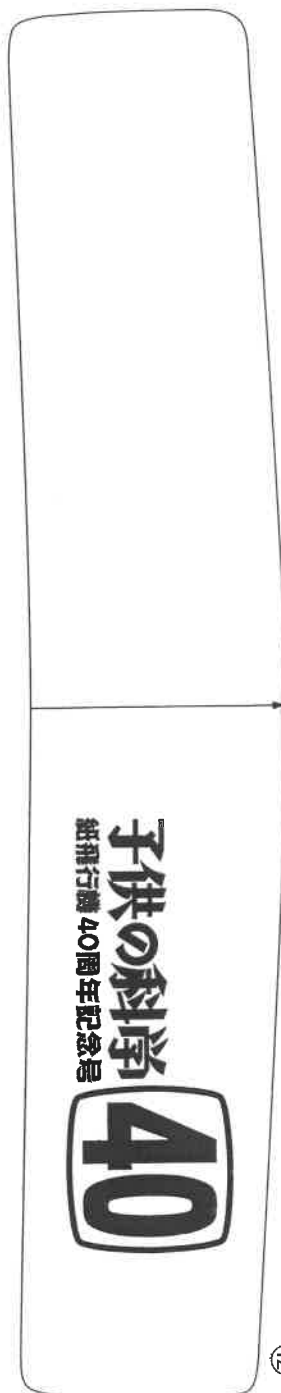
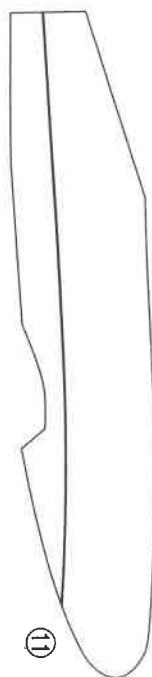
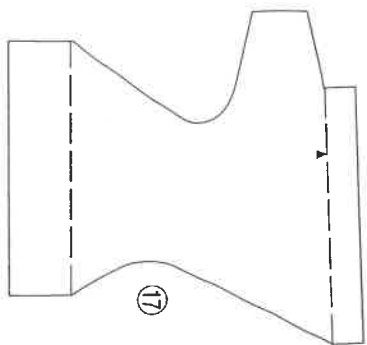
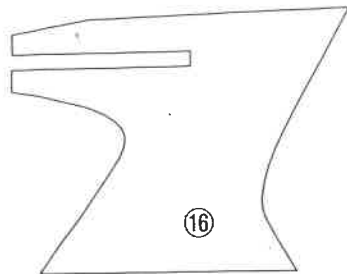
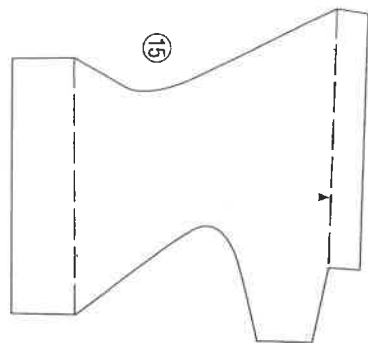
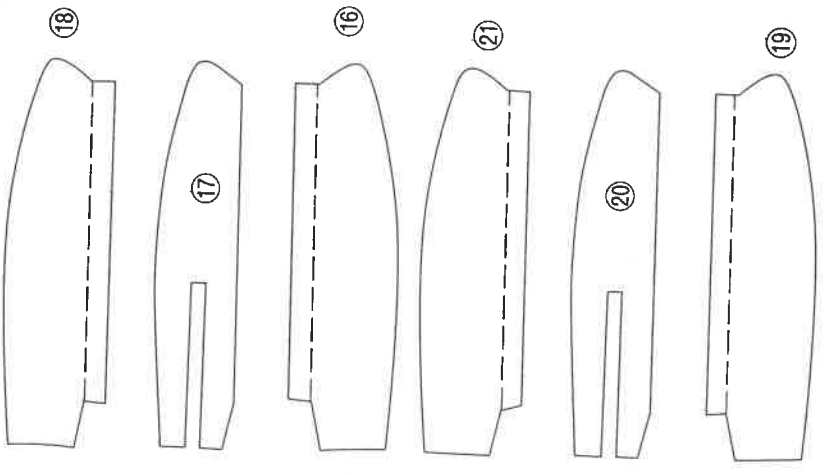
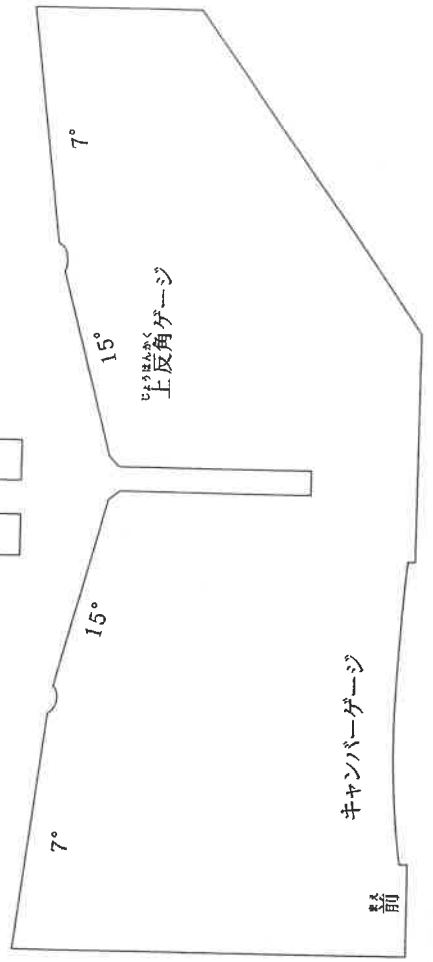
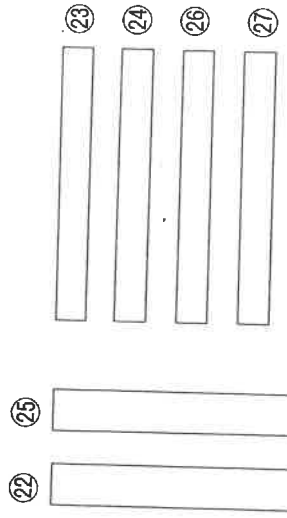
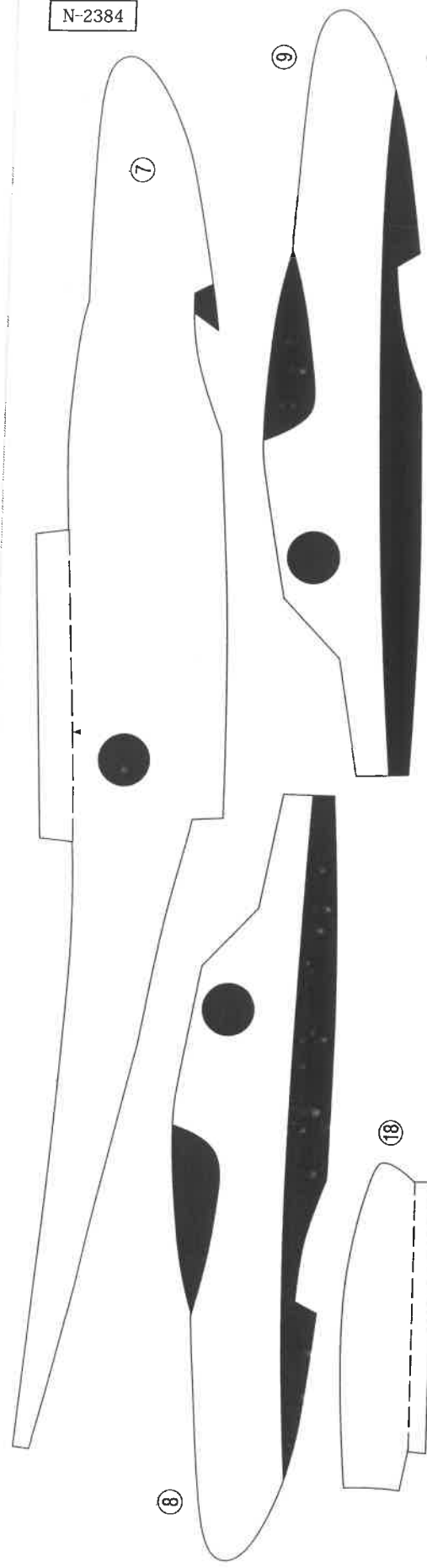
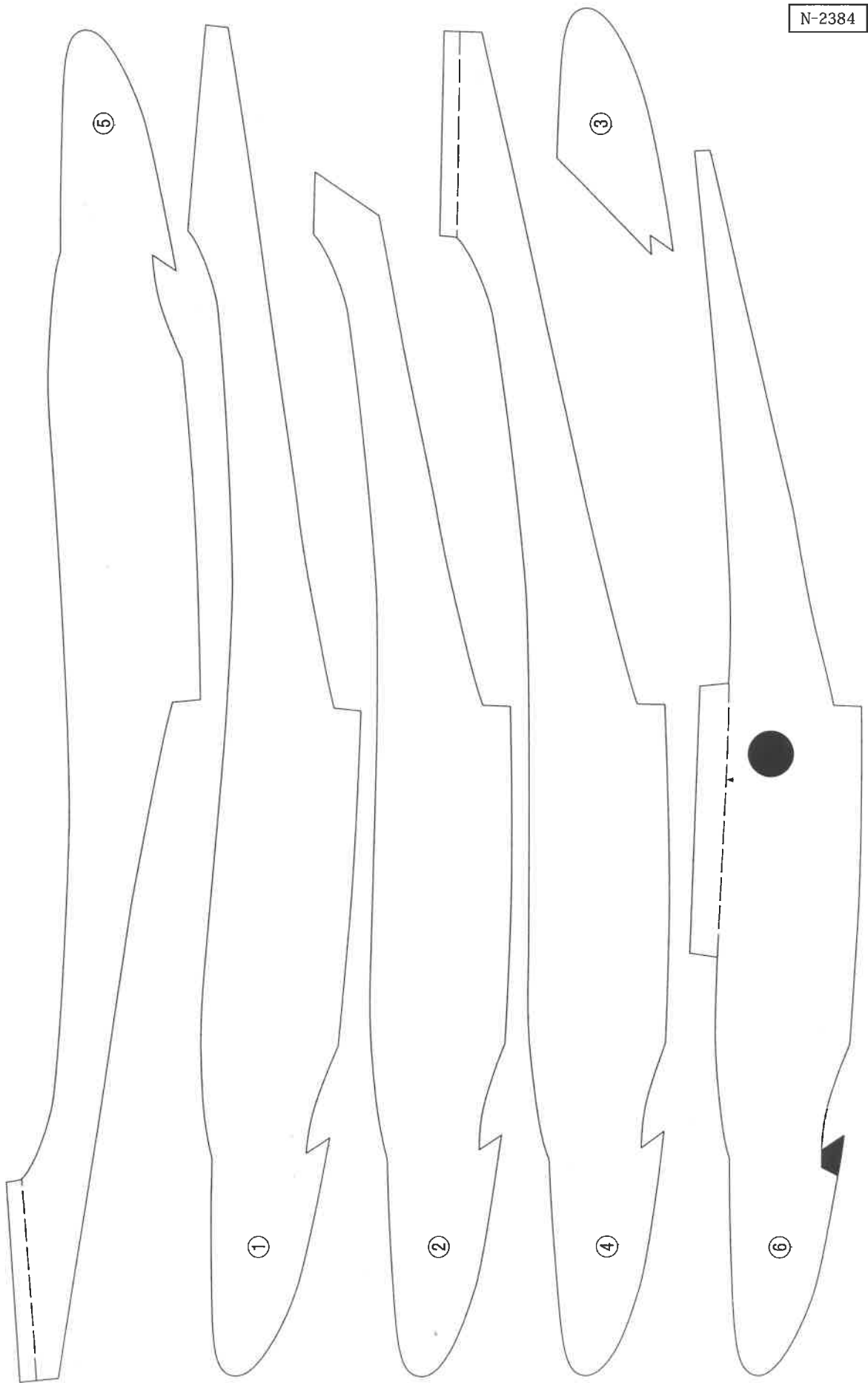
㉒

㉑

N-2240
⑨
⑦
⑤
③
⑥
⑧
④
①
②

⑩
⑪
矢印が前
⑫
子供の科学 40
紙飛行機40周年記念号
矢印が前
⑬
矢印が前
⑭
⑮
⑯
⑰
N-2240

N-2384
⑦
⑧
⑨
⑱
⑰
⑯
㉑
⑳
⑲
㉒
㉕
㉓
㉔
㉖
㉗
7°
15°
15°
7°
上反角ゲージ
キャンバーゲージ
前

N-2384
⑤
①
②
④
③
⑥

双発飛行艇(N-2384)
NINOMIYA AVIATION
新10機選　二宮康明の紙飛行機集
戦闘機・飛行艇
二宮康明
キャンバーゲージ
前
⑲
上反角線
矢印が前
上反角線
⑩
矢印が前
⑪
矢印が前
太線に切りこみを入れる
⑬
太線に切りこみを入れる
⑭
矢印が前
⑮
矢印が前
⑫
矢印が前